婦人関係調査資料NO.35

農家婦人生活に関する意識調査

—結果報告書—

労働省婦人少年局

はしがき

労働省婦人少年局では、婦人の生活と意識の実態を把握し、婦人の地位の向上に資するため、これまで種々の調査を行なつてきましたが、今回は最近、とくにはげしい変動がみられる農村社会における農家婦人の意識と実態を把握することを目的としてこの調査を実施しました。農村婦人問題に関心をもたれる方々にお役に立てば幸いです。

この調査の実施にあたり調査対象者の抽出について農林省農林経済局、市区町村役場、農業委員会の御協力をいたゞきました。また、調査の設計、調査地点の抽出についてとくに統計数理研究所（国立）の御協力をいたゞきました。これらの方々及び御協力くださつた調査対象者の方々に厚く御礼申しあげます。

1963年12月

労働省婦人少年局

目　　次

はしがき

調査の概要 …… 1
調査結果概要 …… 3
調査結果 …… 7

Ⅰ　対象農家の家族及び農業経営状況 …… 7
1　家族構成 …… 7
2　農業の主業、兼業別 …… 8
3　農業経営形態 …… 10
4　経営耕地規模 …… 10
5　世帯収入・農業収入 …… 11
6　世帯責任者の職業 …… 12
7　農業従事者数 …… 13
8　他出家族 …… 14
9　労働力充足状況 …… 18
10　共同作業実行状況 …… 18

Ⅱ　調査対象者の特性 …… 19
1　年　令 …… 19
2　学　歴 …… 20
3　主婦の座 …… 21

Ⅲ　主婦と農業 …… 22
1　農業従事状況 …… 22
2　農作業の種類 …… 23
3　つらい農作業 …… 24
4　農機の使用 …… 33
5　農作業時間 …… 34
6　10年前と比べて農業労働は楽になつたか …… 35
7　産前産後の休養 …… 36
8　農休日 …… 36
9　農業経営参加状況 …… 36
10　農業知識の習得等 …… 37
11　将来への意向 …… 38

Ⅳ　主婦と生活 …… 39
1　家庭管理 …… 39
2　家事の役割の分担 …… 39
3　主婦の家事従事状況 …… 40
4　家計簿記帖・小遣 …… 44
5　衣・食 …… 45
6　耐久消費財 …… 46
7　居住環境 …… 47
8　生活改善 …… 48
9　家事共同化についての意識 …… 49
10　健　康 …… 50
11　睡眠・起床・就寝 …… 50
12　自由時間 …… 51
13　外　出 …… 54
14　旅　行 …… 55

統　計　表　目　次

第1表　家族構成別農家……7
第2表　主業、兼業別農家……9
第3表　主な経営形態別農家……10
第4表　耕作反別農家……11
第5表　年間世帯収入別農家……12
第6表　農業収入比率別農家……12
第7表　世帯責任者の職業別農家……13
第8表　農業従事者数別農家……14
第9表　他出家族有無別農家……14
第10表　他出就業者の状態……16
第11表　ふだんの労働力充足状況……18
第12表　共同作業実行状況……19
第13表　対象者の年令……20
第14表　対象者の学歴……20
第15表　主婦か否か……21
第16表　婚姻継続年数別主婦か否か……21
第17表　主婦の農業従事状況……22
第18表　農作業別主婦の従事率一覧表……26
第19表　主婦の農作業時間……34
第20表　10年前との比較……35
第21表　産前産後の休養……36
第22表　農休日……36
第23表　主婦の農業経営参加状況……37
第24表　農業関係講習会等出席状況……37
第25表　農業知識を得る方法……37
第26表　農家継続希望状況……38
第27表　子どもに対する農業継続希望状況……38
第28表　家庭管理状況……39
第29表　家の仕事の分担……40
第30表　主婦の家事作業実行状況……41
第31表　農繁期の家事実行状況……44
第32表　家計簿記帖……44
第33表　自由に使える小遣……45
第34表　作業衣の自家製、市販品別農家……45
第35表　特定食品購入農家……45
第36表　耐久消費財保有状況……46
第37表　1人あたり部屋数……47
第38表　1人あたり畳数……47
第39表　風呂の有無別農家……47
第40表　炊事用水源……47
第41表　炊事用燃料……48
第42表　生活改善を実行したことの有無別農家……48
第43表　10年前との比較（家事労働）……49
第44表　家事労働の共同化意識……49
第45表　保育所利用状況……50
第46表　健康状態……50
第47表　結婚後健康診断受診状況……50
第48表　睡眠時間……51
第49表　起床、就寝時間の夫との差……51
第50表　自由時間の有無……52
第51表　自由時間にすること……52
第52表　自由時間に対する希望……54
第53表　日帰りの外出……55
第54表　泊りがけ旅行……56

調　査　の　概　要

1. 調査目的

農家婦人は、生産者としても家政の担当者としても、従来から農村社会を支える大きな役割りを果してきたが、近年、とくに人口流出、構造変化、家庭生活の改善等、変動の著しいとみられる農村社会において、農家婦人の地位を高め、福祉を増進するためには、あらたな視点に立つて問題の所在を追求することが求められる。従つてこの調査は農家婦人の生活と農業経営における労働実態とを明らかにするとともに、こうした変動のなかで農家婦人がこれを如何に受けとめているかをあわせてうかがい、今後の農村婦人問題のおもむくところを把握し、行政上の参考に資することを目的とする。

2　調査地域

東京、大阪、北海道を除く全府県の農村（１５才以上男子就業者の６０％以上が農業従事者である町村）

3. 調査対象者

農家主婦　　1,000名

但し、回収数　　９０５名

4. 抽出方法

1）調査地点の選定

調査地点は、調査地域農村中から、昭和３０年国勢調査結果にもとずき５０地点をえらんだ。まず調査地域を７ブロックに分け、各ブロックの農業従事者数に比例してサンプル数を割出し、１地点のサンプルを２０人として、ブロック別地点数をきめた。つぎに各町村（農業率６０％以上の農村）の農業従事者数に比例するウエイトを与えて、ブロック別に等間隔サンプリングによる調査地点となる町村を抽出した。

2）調査対象者の抽出

各市町村農業委員会の保管する調査地点の農家台帳から、下記の条件のすべてに該当する婦人を１地点２０人ずつ、等間隔サンプリングによつて抽出した。

サンプルの条件

1）満２０才以上、６０才未満の婦人（昭和３６年１１月１日現在）

2）農家台帳に世帯責任者の妻として記載あるもの

3）自家農業に従事しているもの（主、補、臨時の別を問わない）

サンプルとして選ばれた対象者が、移転、死亡、長期旅行等のため調査不能になつた場合は不能票として扱つた。

抽出されたブロック別調査地点数及び回収票数は次の通りである。なお調査地点一覧表は巻末に掲げた。

	地点数	回収票数
東　北	13	231
関　東	13	243
中　部	5	90
近　畿	2	37
中　国	4	70
四　国	2	38
九　州	11	196
計	50	905

5. 調査時期　昭和36年11月――昭和37年1月

6. 調査方法

各府県婦人少年室職員又は、室長の委嘱する調査員が訪問、面接して聴取した。

7. 調査事項

1) 対象農家の家族構成、農業経営状況、労働力充足状況、衣、食、住、家計の状況、等

2) 対象者の農業従事状況、家事労働従事状況、教養、娯楽、社会生活、等

調　査　結　果　概　要

調査の結果、農家主婦の大部分は、家事の面ではもちろん、農業の面でも農村の基幹労働力として大きな役割を果していることが明らかになつた。ほぼ10年前と比べると農作業、家事作業とも楽になり、家計管理、家の仕事のわりふり、村のつきあい等の面で主婦の関与がのびる等の進歩がみられるが、一方婦人の農作業時間は依然として長く、農繁期の睡眠時間が不足がちなこと、農業従事の程度に比して農業知識の習得は必ずしも活潑でないこと、生活改善の余地がまだ相当に大きいこと、自由時間のないものが若干みられること等の問題がみられた。

1. 対象農家の特性

対象農家は15才以上男子就業者の60%以上が農業に従事する町村から抽出したので、全般に農村的性格を強くもつている。家族は郡部農林就業者世帯の平均よりも、複合家族の割合が高く、家族員数も多く大家族の傾向をもつ。農業専業型又は農業中心型の農家（主農）が大部分をしめ、農兼併存又は兼業中心型の農家（兼農）は¼程度である。世帯責任者の85%は農業に従事しており、耕地規模も内地平均より大きいものが多く、農業収入への依存度が高い。経営形態としては田作、畑作を主に行なう農家の割合が非常に高く少数が果樹、野菜、酪農等を主に行なつている。平常労働力が十分なもの¼、どうにかやつているもの½不足しているもの¼で、耕地規模の大きい農家ほど手不足を訴えるものが多い。臨時にたのむ人手に困ることがある農家が3割ある。一方平常共同作業を行なう農家は1割にすぎないが、繁忙時だけ行なう農家3割をあわせて4割が共同作業を実行している。

2. 対象主婦の特性

対象主婦は世帯責任者の妻で20才以上60才未満の自家農業に従事する婦人の中から抽出した。世帯責任者の妻を条件としたため年令は郡部平均に比べ年輩層に強くかたより、20代が少く、世帯責任者の妻ではあるが主婦の座にいないものが1割あり、若い層に多い。

3. 主婦と農業

1) 農業従事況　基幹的労働力、補助的労働力の割合は7対3で、主婦の大部分は自家農業の基幹労働力となつている。補助的働き手は50代に多い、農作業を224の作業に分類して主婦の従事状況をみたところ、従事者のもつとも多い稲刈りから、もつとも少い牛乳運搬の際の牛馬の装備作業に至るまで婦人の従事していない作業はひとつもなかつた。田作農家が多いので田作関係の作業は農繁期作業をはじめ従事率が高く、本田耕起、代かき等の重労働や、畑排水、薬剤散

布にも2割程度が従事している。　兼農の主婦は主農に比べて、特定の作業への集中度が低く、多種類の作業に巾広く従事する傾向がみられる。畑作野菜作ーいわゆる畑仕事にも主婦の従事が多く、特殊な園芸作物を除きどの作業にも2～5割が従事している。兼農主婦は主農に比べ整地、薬剤散布、灌排水、その他の管理作業をするものが多い。養蚕では桑摘よりも蚕、繭の作業が多く、各種作業にむらなく従事している。養鶏は副業としてかなり広く行なわれ、飼料の調理、給与、集卵、採糞等が婦人の多い作業である。酪農でも飼料、敷料採糞等の仕事が多い。

もつともつらい作業としては田草とり、田植が最高（それぞれ従事者の½）で、田作関係の作業をあげるものが多く、酪農、養鶏関係にはほとんどない。これは作業量、作業密度と大きな関係があるように思われる。

１０年前に辛かつた作業と比べると、田草とりの首位は変らないが、本田耕起、代かき、脱穀等がその後技術改良によつてある程度楽になつた反面、依然長時間の人力作業にたよる田植、稲刈り等が相対的に辛い作業として浮び上つてきた様子がみえる。

婦人の農機使用は脱穀機、荷車、リヤカーを除き、低率である。

主婦の農作業時間は一般に長く、普通時には８時間以上働くものが７割、１０時間以上働くものが2割、繁忙時には１０時間以上が９割、１２時間以上が６割といちぢるしく長くなる。兼農は主農よりも作業時間が短かいが、しかし普通時に長時間働くものは主農とあまりかわらず、農作業時間は短いものから長いものまで巾広く分布している。

農業労働は作業面でも時間的にも１０年前より楽になつたと大多数が答えているが、作業面に比べると時間の面での改善はやや遅れている。

2）経営参加　　作付計画、生産物販売、資材、肥料の購入等については、大部分の妻が夫等から一応何等かの相談をうけている。自分が主になつてやるものは兼農主婦に多い。

3）農業知識　　農業関係の講習会等に出席したことのあるものは⅓で、大部分はたまに出る程度、農業知識を得るには家のものや他人からきくものが多く、会合や本で得るものは比較的少い。農業基本法の名前を知つているものは５割弱、いくらかでも内容について知つているものは１４％にすぎず、あまり関心が高いとはいえない。

4）将来への意向　　典型的な農村地帯を対象としているので大多数の主婦は将来も農家としてやつていきたい希望をもつている。しかし兼農では自分の代はともかく、子どもにも農業をつがせたいと積極的に思つているものは⅓である。

4．主婦と家庭生活

1）家事　　主婦のうち家計管理をしているものは半分で都市からみれば少ない。一家の仕事のわりふりをするもの、村の集会、つきあいに出るものは３割程度である。しかし１０年前の婦人少年局調査に比べると、これら家庭管理の面で妻の役割が相当に増大したことがみられる。

家事作業の面では炊事、洗濯、屋内清掃除、なはじめほとんどの家事は主婦が中心になつて行なつている。

平生毎日行なう家事を農繁期にはぶくこともあるものは３割程度で大部分は農繁期でもなんとかやつている。このことは農繁期の農作業時間の長さからみて、主婦に相当の負担がかかつていることを示すものといえよう。比較的はぶかれやすい家事は洗濯、つくろい物、子供の勉強をみるなどであつて、食事の準備、後片附け、火のしまつ、家族の寝床の上げ下げ、子供、病人の世話などははぶかれることが少い。

炊事用水源としての水道、簡易水道、井戸（モーター）の普及は合計６割弱、炊事用燃料としてのプロパンガス、石油、電気の普及は４割強で、まだ改善の余地が大きい。炊事用水源が屋外にあるものが４割、つるべ、流水、湧水を使用するものがあわせて２割あり、とくにこれらの農家では家事労働が容易でないことがおしはかられる。

生活改善（かまど、流し、風呂、台所全体等）を実行したものは５割弱であるが、大多数の主婦が１０年前と比べて家事労働は楽になつたと感じている。生活改善実行者には大変楽になつたと感じているものが多い。

家事労働を楽にするため共同炊事等による家事の共同化に賛成するものは¼で、大部分の主婦は個人的に改善するほうがよいと考えている。実際に共同炊事を実行したことのあるものは３％にすぎないが（殆ど農繁期）、実行者の中では逆に⅔の多数がしてよかつた、これからも続けたいと考えている。実行者中共同炊事がよくなかつたと思うものは運搬が遠くて不便、かえつて二重手間になつた、経費が高くついた、気がねをした等の理由をあげており、方法上の問題や適応上の摩擦があることが示されている。

2）健康　　一応健康なものは９割、弱いものは１割だが、健康者の中に肩とり、腰痛、神経痛を訴えるものが６割もある。

結婚後健康診断をうけたことのあるものは７割で大部分は集団検診である。睡眠時間は、普通時には８時間以上とるものが6割、ほとんどが６時間以上とつているが、繁忙時になるとほとんどが８時間未満⅓が６時間未満となり、不充分なものが多くなる。

3）自由時間　　調査は農閑期にかかつたものが多いので、全体としては１時間以上の自由時間をもつものが多いが、自由時間のほとんどないものも３割あり、若い主婦に多い。自由時間のないものの大多数が自由時間をのぞんでおり、とくに若い主婦にその希望が強い。自由時間にしたいこととしては新聞読み、読書、身のまわり、ぬいもの、休息、自分の娯楽等があげられているほか、３０代の主婦では子供と遊びたいというものも多い。

日帰えりの外出は月に１～２回するものが多いが、めつたに外出することのないものも４割弱ある。調査日前１年間に泊りがけの旅行をしたものは４割弱でこの半分以上は団体旅行である。年輩層に旅行するものが多い。

調　査　結　果

I　対象農家の家族及び農業経営状況

1　家族構成

調査対象農家中、夫婦又は夫婦と子どもだけから成る基本家族の割合は40%、親、兄弟、孫等を含む複合家族の割合は60%である。家族員数は第1表の通り6人を中心とし、4～8人の家族が8割をしめる。5人までの家族は40%、6人以上は60%である。

第1表　家族構成別農家

	計	家族員数										家族形態	
		2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	不明	基本家族	複合家族
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100(905)	1	5	13	21	22	18	12	5	3	0	40	60
東北	100(231)	1	3	10	17	20	19	15	9	4	1	39	61
関東	100(243)	0	4	10	20	21	18	18	3	5	1	32	68
中部	100(90)	—	4	12	30	26	17	11	—	—	—	42	58
近畿	100(37)	—	8	16	16	30	22	8	—	—	—	24	76
中国	100(70)	3	13	14	21	21	20	4	1	1	—	46	54
四国	100(38)	3	11	8	24	29	13	11	3	—	—	39	61
九州	100(196)	3	4	18	23	20	16	7	6	4	—	48	52

注1）　0%は0.4%未満であることを、—は該当がないことを示す。

2）　家族の範囲は原則として生計と住居を一にしているものだが、家族員が勤めの関係で外に下宿し、土、日曜日などに帰宅するような場合や、出稼、行商などに出かけていても生活の本拠がその家にある場合は家族に含めた。

昭和35年国勢調査による都部農林就業者親族世帯についてみると、基本家族の割合は48%で本調査よりも高く、家族員数も次表の通り5人までが52%、6人以上48%と少人数の方により多く分布している。

郡部農林就業者親族世帯家族員数

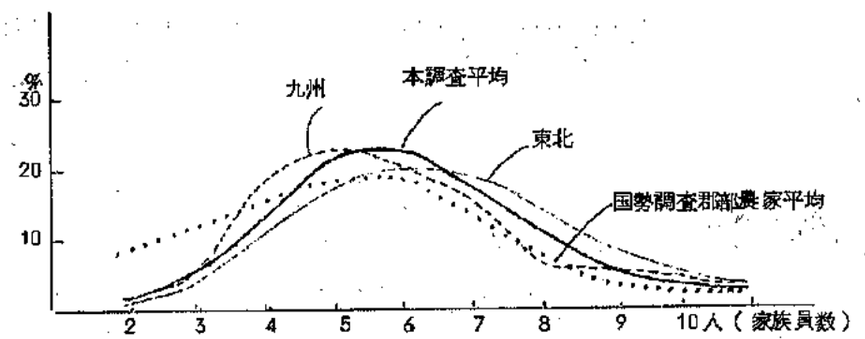
計	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上
100%	8%	11%	15%	18%	19%	14%	8%	4%	3%

注　比較のため、1人世帯を除いて算出した。　　昭和35年国勢調査

これに比べ本調査は農業率の高いいわゆる農村を対象としているため、家族構成もかなり農村的な大家族の特徴をもつている。

ブロック別にみると、東北、関東は平均よりも多人数へ、九州は少人数へのかたよりをもち、その他の地域では中人数（5～6人）家族の比重が大きくなつている。

家族員数別農家分布



2. 農業の主業、兼業別

本調査の対象世帯はいずれも農家台帳に記載されている農家であるが、農業に高度に依存しているか否かによつて農業を主とするもの、或程度の兼業を行なうものに分けてみると第2表の通りである。

本調査では昭和34年農家台帳の作成整備の際、全国農業会議所が試みた分類に準じ、農家を次のように大別した。

主農……1）世帯責任者（事実上の世帯の中心の働き手として、その世帯の生計の担当者となつている者。世帯主と別のこともある。）の本業が農業で且農業所得の割合が総所得の50%以上の農家

2）世帯責任者の本業が農業以外のものであるが、農業所得の割合が90%以上の農家

兼業……1）世帯責任者の本業が農業以外のもので、農業所得が90%以下の農家

2）世帯責任者の本業は農業であるが、農業所得の割合が50%未満の農家

第2表　主業、兼業別農家

	計	主　農	兼　農	不　明
計	100%	75%	22%	3%
東　北	100	76	18	6
関　東	100	76	22	2
中　部	100	78	19	3
近　畿	100	76	22	3
中　国	100	77	23	—
四　国	100	42	58	—
九　州	100	78	21	1

これによると対象農家の$\frac{3}{4}$は主農、$\frac{1}{4}$は兼農であるが、主農のうち$\frac{2}{3}$（全体の$\frac{1}{2}$）は世帯の所得中農業所得が90%以上で、しかも世帯責任者が自家農業に専従しているほとんど専業とみられる農家であり、残り$\frac{1}{3}$が農業中心型の農家である。また兼農のうち約4割は農兼併存型（農業所得は50～90%だが世帯責任者が兼業、又は世帯責任者は専業だが農業所得が10～50%）であり、残り6割は兼業中心型の農家である。

昭和34年の農家台帳農家分類統計表による内地の農家分布は次の通りで、本調査で主農とするもの68%、兼農とするもの38%であるから、本調査の対象農家は平均よりもかなり農業依存度が高い。

内地，主兼別農家分布

	合　計	農業専業型（主　農）	農業中心型（主　農）	農業併存型（兼　農）	農業中心型（兼　農）
内地　計	100%	36.6%	25.2%	13.8%	24.4%
東　北	100	39.7	25.7	12.9	21.7
北　陸	100	37.8	26.5	13.1	22.6
関　東	100	46.1	21.3	11.2	21.4
東　山	100	34.4	27.4	14.5	23.7
東　海	100	32.4	24.0	15.6	28.0
近　畿	100	27.8	25.7	16.0	30.5
中　国	100	28.8	27.1	16.4	27.7
四　国	100	31.9	26.0	14.4	27.7
九　州	100	35.8	26.6	14.4	23.2

全国農業会議所「農家台帳農家分類統計表」—昭和34年度中間報告

ブロック別には大きな差がみられないが、例外的に四国において兼農の割合が著しく高くなつている。これは四国でのサンプル数が少なかつたので、次にみられるように経営耕地規模の小さい農家ーすなわち農業収入の割合の低い農家にサンプルが偏つたためと思われる。

3. 農業経営形態

対象農家を主な農作物別に分類すると、田作３３％、田畑作３５％がもつとも多く、畑作９％、養蚕４％がこれにつぐ。少数の農家が果樹、野菜、酪農等を主に経営している。このほかに田．畑とその他のものをあわせて兼営している農家が若干あるので、全体としてみると田作、畑作を主に行なう農家の割合は非常に高い。主農、兼農別にみると、主農では多角的経営をするものが兼農に比べやゝ高率であり、兼農では田作、畑作型の農家がやゝ多くみられる。ブロック別にみると関東では田作の割合がやゝ低く畑作の割合が高い。中部、中国では田作の割合がやゝ高く畑作が少ない。養蚕を主とするものは関東に、果樹作を主とするものは九州に多くなつている。なおこの経営形態は主なものについての分類であつて、附ずい的に他種のものを生産していることを妨げない。

第３表　主な経営形態別農家

	計	田作	田畑作	畑作	野菜作	果樹作	養蚕	酪農	養鶏	畜産	田とその他	田畑とその他	畑とその他	複合
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100(905)	33	35	9	2	2	4	1	0	0	8	4	2	2
主農	100(681)	32	34	8	2	1	4	1	0	0	9	5	2	2
兼農	100(199)	35	36	12	2	3	3	1	—	1	6	3	1	—
東北	100	40	32	5	1	—	1	1	—	—	12	3	3	2
関東	100	11	50	13	3	0	13	—	—	—	—	7	3	—
中部	100	43	12	—	2	—	—	—	—	—	32	4	—	6
近畿	100	30	38	—	8	—	—	3	3	—	8	8	—	3
中国	100	69	17	—	—	1	3	1	—	—	4	—	—	4
四国	100	16	53	—	3	—	—	5	—	—	8	16	—	—
九州	100	36	32	17	—	7	—	—	—	2	3	2	1	—

4. 経営耕地規模

経営耕地は約半数が１町未満である。最も多いのは0.5～1町の３０％、次いで１～1.5町の２２％が中位階級となつており、0.5町未満は１６％、２町以上の農家は１５％である。

ブロック別にみると、かなりの差があり、東北、関東では耕地の広い農家が多く、中部、四国、では狭い農家が多い。

第４表　耕作反別農家

	計	0.5町未満	0.5～1	1～1.5	1.5～2	2～2.5	2.5～3	3町以上	不明
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100	16	30	22	14	8	3	4	3
東北	100	14	18	19	22	12	4	7	4
関東	100	12	28	22	16	12	5	3	2
中部	100	20	46	17	3	9	—	1	8
近畿	100	3	46	41	5	—	—	—	5
中国	100	11	31	39	11	6	1	—	—
四国	100	32	40	18	8	—	—	—	3
九州	100	20	35	20	11	4	2	6	1

農林省「農業調査」（３６年１２月）の全国の分布と比べると、東日本では広い層が多く、西日本では狭い層が多い傾向は同様であるが、農業調査では0.5町未満の層が最も大きい割合を占め２９に対し、本調査では0.5～1町の層が最も多く経営耕地規模は全国平均をかなり上廻る。

内地・耕作反別農家

	計	0.5町未満	0.5～1	1～1.5	1.5～2	2町以上
	%	%	%	%	%	%
内地計	100	38.2	32.6	17.5	7.2	4.3
東北	100	23.6	26.4	21.5	13.7	14.6
関東	100	28.6	29.7	23.3	12.0	6.2
北陸	100	28.5	33.2	20.5	10.5	7.2
東山	100	39.1	37.6	17.3	4.7	1.3
東海	100	43.5	35.2	16.1	4.1	0.8
近畿	100	51.2	35.6	11.0	1.8	0.3
中国	100	45.3	35.3	15.1	3.6	0.6
四国	100	49.1	36.7	11.0	2.3	0.7
九州	100	42.9	31.6	16.5	6.1	2.6

昭和３６年１２月「農業調査」——農林省

5. 世帯収入・農業収入

対象農家の年間総収入（農業収入及び農業外収入をあわせた現金収入で、純益でなく売上げ収入）を主婦に質問したところ第５表の通り不明のものがかなり多く、回答者についても、金額はおよその記憶によるものだが、大多数は８０万円未満であり、兼農のほうに世帯収入の低いものが多い。

第5表　年間世帯収入別農家

	計	30万円未満	30～50万円	50～80万円	80～100万円	100万円以上	不明
計	100%	36%	29%	20%	4%	3%	8%
主農	100	35	29	21	4	3	8
兼農	100	44	29	16	2	2	6

注　総数には主業別不明農家も含まれ、不明の農家に収入も不明のものが多い。

総収入中をしめる農業収入の割合は第6表のとおり、やはり不明が多いが、回答したもののうちでは、農業収入90%以上のものが過半数をしめ、大部分が50%以上となつている。

第6表　農業収入比率別農家

計	農業収入が90%以上	50～90%	10～50%	10%未満	不明
100%	41%	20%	12%	4%	24%

前記「農家台帳農家分類統計表」による次の内地分布に比べ、本調査対象農家では農業収入への依存度がかなり高い。

内地農業収入比率別農家

	計	農業所得が90%以上	50～90%	10～50%	10%不満
内地計	100%	38.5%	26.3%	21.5%	13.7%

昭和34年　農家台帳農家分類統計表

6.　世帯責任者の職業

世帯責任者が農業を専業としている農家が85%、何らかの兼業を主な職業としている家が14%でこの調査の対象農家では世帯責任者である男子の大部分が自家農業に専従している。兼業のうちわけは、職員・常勤的労務者――いわゆる雇用者でおおむね安定的な兼業とみられる――が7%で兼業の半分を占め、次いで自営業主、職人5%、非常勤的労務者――日雇、人夫など一応不安定な兼業とみられる――が2%となつている。

第7表　世帯責任者の職業別農家

	計	専業	兼業					不明	無職
			小計	自営業主職人	職員常勤的労務者	非常勤的労務者	その他		
計	100%	85%	14%	5%	7%	2%	0%	1%	0%
東北	100	89	9	3	5	1	—	2	0
関東	100	81	18	10	8	0	—	0	1
中部	100	94	6	2	1	2	—	—	—
近畿	100	95	5	3	3	—	—	—	—
中国	100	84	14	10	4	—	—	—	2
四国	100	66	34	8	16	11	—	—	—
九州	100	83	17	4	9	4	1	—	—

注　本調査で世帯責任者とは、事実上の世帯の中心の働き手としてその世帯の生計の担当者となつている人であつて、必ずしも住民登録等の「世帯主」「世帯筆頭者」とは限らない。原則として農家台帳に世帯責任者として記載されたものであるが、調査家族の際、改めて、チエックし、変化があつた場合は実際の世帯責任者をとつている。

全国（内地計）の割合を「農家台帳農家分類統計表」でみると、兼業に従事するものは40%で、本調査に比べて著しく高い。又兼業の種類も非常勤的なものの割合が高い。

7.　農業従事者数

一家のうち専従、補助をふくめて農業労働に従事する家族の人数は、全体としては2人がもつとも多く農家の38%を占め、ついで3人27%、4人21%、5人以上11%、1人3%となつている。家族員数別にみると、2人家族では77%が2人とも従事しており、4人家族くらいまでは2人従事がもつとも多い。5人家族になると約半数が3人以上になり、8人家族以上では過半数が4人以上従事となつている。

第8表 農業従事者数別農家

	計	農業従事者数				
		1人	2人	3人	4人	5人以上
計	100(905)%	3%	38%	27%	21%	11%
家族員数 2人	100(13)	23	77	—	—	—
3	100(44)	18	48	34	—	—
4	100(113)	2	64	24	10	—
5	100(189)	2	50	30	15	3
6	100(198)	2	30	34	25	9
7	100(661)	2	31	30	26	11
8	100(112)	1	19	20	35	25
9	100(43)	—	16	21	28	35
10人以上	100(30)	—	7	—	33	60

8. 他出家族

家族のうち、就職、就学などのために家をはなれて他所に出ているもののある農家は30%あり、その多くは1人(17%)又は2人(9%)であるが、3人以上も少数(4%)ある。ある世帯での平均人数は1.5人(農家総数平均では0.5人)である。

第9表 他出家族有無別農家

	計	あり						なし
		小計	1人	2人	3人	4人	5人以上	
計	100%	30%	17%	9%	3%	1%	0%	70%
東北	100	30	17	10	4	0	—	70
関東	100	28	19	6	1	1	—	72
中部	100	40	16	18	4	1	1	60
近畿	100	35	22	11	3	—	—	65
中国	100	21	11	7	3	—	—	79
四国	100	26	21	5	—	—	—	74
九州	100	29	17	7	3	1	1	71

注 他所にいる家族の範囲は、直系の未婚の家族員で、本来いっしょに住む人が家をはなれて他所にいる場合に限る。

他出家族のうちわけをみると、94%までは他出就職者で、他出就学者は6%である。他出就職者のうち、男子は64%、女子は36%、他出就学者のうち男子は62%、女子は38%をしめている。

他出就職者について、他出先の産業、職業をみると第10表のとおり、男女とも第2次産業、ついで第3次産業がめだつて多いが、女子では個人家庭の第1次産業に入つたものも若干みられる。職業では男女とも単純労務者が半数をしめ、これについで男子では事務・販売、運輸、サービス職業、女子ではサービス、事務・販売、専門的、技術的、管理的職業の順になつている。他出先の地域は、ブロック別によつて異るが全体では県内2割、県外8割と県外へ出るものが多く、県外へ出るもののうちでは、6大都府県へ出るものが8割をしめている。東北、中部は比較的県外転出者が多く、中国、四国では県内就職者が多い。

家へ送金するものは男子の26%、女子の18%、家から送金をうけるものは男子の5%、女子の6%となつている。

他出就学者は該当数が少ないが、学校種別にみると大学が4割、高校が1割、その他の学校が5割となつており、6割が県外転出である。家から送金をうけているものは8割である。

第10表　他出就職者の状態

		計			東北			関東			中部			近畿			中国			四国			九州		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
計		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		(386)	(247)	(139)	(93)	(62)	(31)	(92)	(57)	(35)	(67)	(33)	(34)	(18)	(14)	(4)	(20)	(16)	(4)	(10)	(8)	(2)	(86)	(57)	(29)
他出先の産業	第1次産業	7	2	14	1	2	—	21	—	54	3	6	—	—	—	—	—	—	—	10	13	—	3	4	3
	第2次産業	48	53	39	47	58	26	46	53	34	48	45	50	33	43	—	45	56	—	20	25	—	59	60	59
	第3次産業	33	36	27	38	34	45	28	44	3	36	36	35	44	50	25	40	44	25	60	50	100	23	25	21
	個人家庭	6	—	17	8	—	23	3	—	9	7	—	15	17	—	75	15	—	75	—	—	—	3	—	10
	不明	6	8	3	6	6	6	2	4	—	6	12	—	6	7	—	—	—	—	10	13	—	10	12	7
他出先	県内	20	18	24	13	13	13	23	14	37	12	21	3	28	29	25	45	38	75	50	38	100	21	14	34
	県外	78	81	74	86	85	87	74	84	57	87	76	97	72	71	75	55	63	25	50	63	—	79	86	66
	東京	38	43	30	49	56	35	64	75	46	40	39	41	6	7	—	—	—	—	20	25	—	14	19	6
	大阪	10	13	5	—	—	—	2	4	—	—	—	—	39	43	—	25	31	—	10	13	—	29	33	21
	神奈川	3	3	2	—	—	—	5	4	9	3	6	—	—	—	—	—	—	—	10	13	—	3	5	—
	愛知	7	5	11	—	—	—	1	2	—	22	24	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	7	28
	兵庫	2	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	31	25	—	—	—	3	4	3
	福岡	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	11	—
	不明	1	1	1	1	2	—	2	2	6	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
送金有無	送金あり	28	31	24	22	24	16	21	19	23	31	36	26	6	7	—	35	44	—	10	13	—	48	51	41
	家へ	22	26	18	16	21	6	10	9	11	28	30	26	6	7	—	35	44	—	10	13	—	42	46	34
	家から	6	5	6	5	3	10	11	11	11	3	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	5	7
	送金なし	67	67	73	76	74	81	77	79	74	66	61	71	94	93	100	65	56	100	90	86	100	48	44	55
	不明	3	2	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	3
職業	専門的技術的管理的職業	8	5	12	16	13	23	3	2	6	6	3	9	6	7	—	10	—	50	—	—	—	5	4	7
	事務、販売	18	19	15	4	6	—	26	26	26	18	21	15	39	43	25	20	25	—	50	50	50	14	12	17
	農林漁採鉱採石	2	2	—	1	2	—	—	—	—	3	6	—	—	—	—	—	—	—	10	13	—	2	4	—
	運輸的職業	9	9	7	17	10	32	9	14	—	6	12	—	6	7	—	5	6	—	—	—	—	3	5	—
	単純労務者	49	49	49	48	50	45	50	49	51	48	48	47	22	29	—	55	56	50	40	38	50	56	54	59
	サービス職業	12	9	17	6	10	—	12	9	17	15	3	26	28	14	75	10	13	—	—	—	—	13	11	17
	その他	0	0	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	不明	4	5	1	5	8	—	—	—	—	4	6	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	11	—

9. 労働力充足状況

ふだん今の働き手で農業に十分まにあつているかどうかをみると、十分まにあつている農家は２６％、どうにかやつているもの４９％足りないと答えたもの２３％で、約半の農家が平常の労働力に不足を感じている。これを耕地規模別にみると、一般に耕地規模の大きいほど手不足を感じているものが多く、（耕地0.5町未満１４％、３町以上４１％）、耕地規模の小さいほど十分まにあつているというものが多くなつている。（0.5町未満４１％、３町以上１３％）。ブロック別にみると、もつとも耕地規模の大きい東北では「不足」と答えるものが多く、耕地規模の小さい四国では「どうにかやつている」というものが大部分をしめている。

第１１表　ふだんの労働力充足状況

		計	十分まにあつている	どうにかやつている	足りない	不明
	計	100%	26%	49%	23%	2%
ブロック別	東北	100	26	38	36	—
	関東	100	31	50	17	2
	中部	100	34	43	17	6
	近畿	100	27	51	22	—
	中国	100	27	53	19	1
	四国	100	13	74	13	—
	九州	100	19	58	22	1
耕作反別	0.5町未満	100(141)	41	45	14	—
	0.5～1町	100(273)	28	56	14	2
	1～1.5	100(201)	26	52	21	1
	1.5～2	100(127)	22	39	37	2
	2～2.5	100(76)	17	45	37	1
	2.5～3	100(27)	—	48	48	4
	3町以上	100(37)	13	46	41	—

ふだんの働き手のほかに、臨時に働き手（臨時雇、季節雇など）をたのむことのある農家は６２％だが、そのうち人手をたのみたいときにすぐまにあわず困ることがあると答えた農家は１割（農家総数の２９％）となつている。ブロック別にみると「困る」というものはやはり東北がめだつて多い。（農家総数の４０％）

10. 共同作業実行状況

平常の農作業を何軒かが共同で行なつている農家は対象農家の９％にすぎない。しかし平常の共

同作業はしていないが、忙しい時季に共同作業をしている農家が３３％あり、ともかく共同作業をすることのある農家が４２％、全く共同作業をしない農家が５６％となつている。主農、兼農別にみると、忙しい時季の共同作業をする農家が主農に若干多い程度で、常の共同作業にはとくに差がみられない。ブロック別では常の共同作業は東北、九州に忙しい時の共同作業は四国、九州、東北にやや多くみられた。

第１２表　共同作業実行状況

	計	常の共同作業をしている	していない	忙しい時の共同作業をしている	していない	不明	不明
計	100%	9%	91%	33%	56%	2%	—%
主農	100	9	91	34	55	2	—
兼農	100	10	90	28	61	1	—
東北	100	13	87	35	47	5	0
関東	100	6	94	27	67	—	—
中部	100	4	96	32	64	—	—
近畿	100	5	95	27	68	—	—
中国	100	9	91	31	60	—	—
四国	100	3	97	39	58	—	—
九州	100	13	87	36	51	—	—

Ⅱ. 調査対象者の特性

1. 年　令

調査対象者は満２０才以上６０才未満の主婦であるが、年令別にみると、２０代は８％と少なく、３０代　３４％、４０代３０％、５０代２８％と大部分は３０才以上である。

昭和３５年国勢調査による郡部２０才以上６０才未満有配偶女子人口の割合は、２０代　２４％、３０代　３４％、４０代　２５％、５０代　１７％であるから、本調査はこれと比べて２０代は著しく少なく、３０代は変らず、年長層の方にかなり大きく偏つている。

これは主として調査対象者を世帯責任者の妻としたためで、対象農家では、親夫婦が世帯責任者に当つている場合が相対的に多いことを示している。

家族形態と関連してみると、２０代、３０代では複合家族が多く、４０代では基本家族がやや多

くなるが、５０代では再び複合家族が多くなつている。ブロック別にみるとサンプル数の少ない近畿では３０代、四国では４０代へのかたよりがみられるが、他の地域ではそれほど大きな差はない。

第１３表　対象者の年令

	計			２０代			３０代			４０代			５０代		
	計	基本家族	複合家族	計	基本家族	複合家族	計	基本家族	複合家族	計	基本家族	複合家族	計	基本家族	複合家族
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100	40	60	8	3	5	34	12	22	30	16	14	28	9	19
東北	100	39	61	10	5	5	30	12	18	31	14	17	29	8	21
関東	100	32	68	8	1	7	34	10	24	32	15	17	27	6	21
中部	100	42	58	8	1	7	32	10	22	30	19	11	30	17	13
近畿	100	24	76	—	—	—	49	3	46	22	14	8	30	8	22
中国	100	46	54	6	2	4	37	20	17	25	14	11	31	10	21
四国	100	39	61	11	11	—	34	8	26	42	18	24	14	3	11
九州	100	48	52	7	4	3	37	15	22	29	18	11	27	11	16

2. 学　歴

対象者の学歴は年令が高い関係もあつて、大部分が戦前学制による小学校（４０％）又は高等小学校卒業（４２％）となつている。新制中学卒業、旧高女卒業はともに４％、新高卒が１％、その他の学校卒は１１％である。

第１４表　対象者の学歴

計	学歴なし	小学卒	高小卒	新中卒	旧高女卒	新高卒	旧師範高専卒	新旧大卒	その他の学校卒
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
100	1	40	42	4	4	1	0	0	11

昭和３５年国勢調査結果と比べると、調査時期に約１年のずれがあるが、郡部２０才以上６０才未満女子平均よりも、本調査対象者の学歴はかなり低い方に偏つている。

郡部女子（２０才～６０才）の学歴

郡部、２０才以上60才未満女子人口	小学卒	高小卒	新中卒	青年学校卒	旧高女卒	新高卒	短大高専卒	大学卒
%	%	%	%	%	%	%	%	%
100	23	37	16	3	12	8	1	0

昭和３５年国勢調査

3. 主婦の座

調査対象者は世帯責任者の妻であるから、実質上一家の主婦であるはずだが、本人自身が主婦であると思つているか否かをきいたところ、主婦であると答えたものは９０％、主婦ではないと答えたものが１０％であつた。主婦でないと答えた１０％のうち８％は嫁（又は娘）、２％が姑（又は母）で、世帯責任者の妻でありながら主婦の座についていない場合も若干みられる。ブロック別にみると中国、四国、中部、九州など基本家族の割合が比較的高い地域で（四国を除く）主婦の座にあるものの比率が少くなつている。

第１５表　主婦か否か

	計	主婦	主婦ではない			
			小計	姑・母	嫁・娘	不明
計	100%	90%	10%	2%	8%	0%
東北	100	88	12	3	9	—
関東	100	86	14	1	12	0
中部	100	96	4	2	2	—
近畿	100	87	14	3	11	—
中国	100	99	1	—	1	—
四国	100	97	3	—	3	—
九州	100	91	9	4	5	—

これを婚姻継続年数別にみると、第１６表の通りで、結婚後５年未満のもので約７割の妻が主婦となつており、３割が主婦になつていない。その後、年とともに主婦となるものがふえ結婚後２０年たつと殆どが主婦となり、３０年以上になるとぽつぽつ嫁、娘に主婦の座をゆずるものが出てくる。

第１６表　婚姻継続年数別主婦か否か

	計	主婦である	主婦ではない
計	100%（905）	90%	10%
結婚５年未満	100（ 25）	72	28
５～１０年	100（ 79）	75	25
１０～１５	100（184）	86	14
１５～２０	100（149）	93	7
２０～２５	100（138）	97	3
２５～３０	100（105）	99	1
３０年以上	100（226）	91	9

Ⅲ 主婦と農業

1. 農業従事状況

調査対象者は農家台帳に、自家農業に従事している旨記載のあるもののなかから抽出したので、当然９８％とはとんどが実際に農業に従事している。そのうち自家農業の主となる働き手（常時自家農業の主要な仕事に欠くことのできない基幹的労働力で１家に１人とは限らない）は６７％、補助的働き手（常時自家農業に従事しているが、主となる人の補助的な手伝いをする程度の人、又はふだんは自家農業以外の仕事をしたり、工場、学校などに通つているが、休日や農繁期などに臨時的に自家農業に従事する人）は３１％である。主農では主となる働き手が６４％であるのに対して、兼業では７８％と高率である。年令別にみると、主となる働き手は２０代、３０代　７７％、４０代　７２％、５０代　４７％で、５０代になると補助労働力に廻るものがかなり多くなつてくる。ブロック別にみると本調査では、近畿、関東で主となる働き手の割合が高く、東北ではかなり低くなつている。

第１７表　主婦の農業従事状況

	計	農業従事					農業外従事	無職
		小計	主となつてやる	うち副業のある人	補助的にやる	うち副業のある人		
計	100%	98%	67%	4%	31%	4%	1%	1%
主農	100	98	64	3	34	4	0	2
兼農	100	98	78	8	20	7	1	1
２０代	100	97	77	3	20	1	1	1
３０代	100	99	77	5	22	5	1	0
４０代	100	99	72	6	27	4	0	1
５０代	100	96	47	2	49	4	—	4
東北	100	94	49	3	45	5	1	5
関東	100	100	78	2	21	3	1	—
中部	100	100	60	—	40	3	—	—
近畿	100	100	87	22	13	5	—	—
中国	100	99	73	4	26	4	1	—
四国	100	100	63	24	37	13	—	—
九州	100	99	72	4	27	5	—	1

農業に従事するかたわら、何らかの副業をしている婦人は８％だが、兼農（１５％）、３０代　４０代（各１０％）に高率である。農業従事の主、補助では、主となる働き手中副業あるもの６％、補助的働き手中副業あるもの１４％と、補助的働き手の副業従事が多い。副業の種類としては炭焼き、竹、柳細工、日雇労務、植林、しいたけ、のり、こうじ、とうふ等の加工、養蚕、俵つくり、造花、ビニール製品内職、洋裁、助産婦、生花等があげられている。

2. 農作業の種類

田作、畑作、野菜作、果樹作、養蚕、酪農、養鶏の７部門について、各部門毎の一貫作業を２２４の作業に分類し、主婦の従事状況をみたところ、２２４の作業中、従事するものの最も多い稲刈りから、最も少ない牛乳運搬の際の牛馬の装備作業に至るまで、婦人の従事していない作業はひとつもなかつた。対象者総数について、各作業毎の従事率を一覧表（第１８表）として掲げたが、特徴的な点をあげてみると次のとおりである。なお農作業中、若干のものについて一覧表の末尾に解説を掲げた。

対象農家は田作を行なうものが多いので、田作系統の作業は全般的に従事率が高い。なかでも従事するものの多い作業は、一定期間に大量の人力作業を要する稲刈り、（対象者の７５％が従事）、田植（６９％）をはじめ、田草とり（６９％）、苗とり（６８％）であるが、その他従事率の高い作業を順にあげると、稲作関係では脱穀（５５％）、稲運搬（４４％）、稲乾燥（４２％）、稲とき（４０％）、籾乾燥（４０％）、畦畔草取り（４０％）、苗代一切（３７％）、苗運搬（３８％）、籾摺（３５％）、中耕（３３％）、元肥（３２％）、追肥（３０％）等、麦作関係では、麦播（３８％）、麦とき（３７％）、麦踏（３３％）等であるが、本田耕起、本田代掻等の重労働や、灌排水、薬剤散布、その他の管理作業にも１５～２０％程度が従事しており、田作関係ではもつとも従事者の少ない本田整地、定植、先切り、俵装等にも５％以上が従事している。

主農と兼農の主婦の従事作業を比較してみると全般的な傾向は似ているが、主農の主婦が、稲刈り、苗とり、田植、脱穀、稲とき、麦とき、調整、籾乾燥、籾摺、等特定のまとまつた作業に集中する程度が高いのに対して、兼農主婦はこれらの作業ではやや従事率が低いかわりに、灌排水、選種、浸種、元肥、追肥、苗運搬、その他の管理作業等の従事率で主農を上廻り、一般に多種類の作業にわたつて従事する傾向が強いことを示している。

畑作――いわゆる畑仕事にも主婦の従事が多く、特殊な園芸作物を除くと、どの作業にも２～５割が従事している。畑作中従事率の高い作業は、中耕除草（土寄せを含む、５４％）、播種（５２％）、刈取り（４８％）、植付け（４８％）、間引き（４６％）、収穫（４６％）、追肥（４３％）、掘取り（大根、ねぎ、人じん等、４０％）、元肥（３８％）、整地（３３％）等である。主農では兼農に比べて、種落し、土落し、収穫、刈取り、定植、摘芯、誘引等、兼農では、整地、運搬、選種消毒、薬剤散布、施肥等がやや高率である。

野菜も多くの農家で多かれ少なかれ作つているので、婦人の従事率は一般に高く、大ていの作業に2～5割が従事している。従事の多い作業は播種（46%）、中耕除草（45%）、収穫（42%）、追肥（40%）、元肥（37%）、整地（35%）、間引（30%）等。もつとも従事の少ない交配、誘引、荷造にも6～8%の婦人が従事している。主農のほうが多い作業は、選別、結束、荷造、兼農のほうが多い作業は整地、薬剤散布、灌水、その他の管理作業である。

果樹作、養蚕、酪農、養鶏は経営する農家が比較的少ないので、田畑作等に比べると従事する主婦も少ない。また特殊な作業を除いては、全般に主農の主婦の従事率が高い。

果樹作で主婦の従事の多い作業は、収穫（9%）、追肥（8%）、薬剤散布、中耕除草、選別、藁ワラ巻込（以上各7%）、元肥、袋掛、箱詰、摘果、除袋（以上各6%）等、従事の少ないものは苗床（1%）、整枝（2%）等である。兼農のほうに従事率の高いものは、整地、剪定、管理等である。

養蚕関係では一般に栽桑よりも兼蚕作業の従事率が高く、養蚕作業では催青（蚕卵内の胚子が健全に発育し、一斉に孵化しうるように、適当な温湿度の下において保護する、2%）、蚕出屋根の組設（4%）を除き、蚕室、蚕具の消毒、清掃、棚据え、採桑、給桑、除沙（汚物除去）、防除、上蔟、収繭、選繭等の作業に、10～16%程度にかなり平均的に従事している。栽桑関係で従事の多い作業は、中耕除草（13%）、春刈（10%）、結束（蕾、枝を支柱にしばる　9%）、耕耘施肥（7%）、枝蕾整理（7%）等である。主農は兼農に比べて、全作業にわたつてかなり高い従事率を示している。

酪農関係では、飼料の調理、給与の仕事、敷料（わら、くさ）搬出入、糞かき等の仕事が5～9%程度で比較的多いが、搾乳、牛乳処理、牛の手入運動等の仕事にも2～4%程度従事している。牛乳運搬、放牧等の仕事に従事するものは1%未満でもつとも少ない。牛の手入れの作業が兼農のほうが高率であるほかは、主農の従事率が全般に高い。

養鶏は副業的にかなり広く行なわれているため、各種作業に婦人が相当従事している。主婦が従事する作業の多いのは飼料の調理給与関係の作業（15～25%）、集卵（20%）、採糞（20%）であるが、糞の乾燥、集積、選卵、運搬等にも5～8%程度従事している。梱包（糞）、箱詰（卵）はもつとも低率だが、2～3%が従事している。卵の運搬（選卵場や集荷場へ）が兼農で高率であるほかは、主農のほうが従事率がやや高い。

3. つらい農作業

対象者の行なう農作業中、もつとも辛いと思う作業を3つだけあげてもらつた。結果は農作業一覧表の右はしの欄に各作業を行なうもののうち、辛い作業としてあげたものの割合として示した。辛いという答の頻度は田作系統の作業に高く、酪農、養鶏にはほとんど見当らなかつた。各作業の従事者中辛いと答えたものの割合の多かつた作業は次のとおりで、だいたい繁忙時の集中密度の高

い作業、量的に多い作業、水田中の不快をともなう作業、重作業に属するものがあげられているが、

田　作	田草とり	50%
	田　植	48
	稲運搬	26
	本田耕起	26
	稲刈り	22
	畦塗り	21
	麦こき	19
	脱　穀	16
	本田整地	13
	苗とり	10
畑　作	整　地	22
	抜取り（ラミー）	20
	運　搬	15
果樹作	苗　床	18
	整　地	16
	薬剤散布	10
養　蚕	催　青	15
	給　桑	12
	採　桑	11

とくに田草とり、田植がめだつて高率である。

これを10年前のもつとも辛かつた作業としてあげてもらつたものと比べると（10年前には農作業をしていなかつたものや現在と異る作業をしていたものもあるので直接比べることはできないが）10年前の順位はやはり田草とりが首位をしめ、次いで本田耕起、田植、脱穀、稲運搬、稲刈り、代掻き、稲こきの順になつている。大体同じような作業があがつているが、10年前の辛い作業としては、本田耕起、代掻き、脱穀をあげるものが現在よりも相当に多く、田植、稲刈などが少なくなつている。しかし、耕起、代掻き、脱穀などの労働は10年間に技術改良等によつて相当に軽減されたので、現在では依然長時間の人力作業にたよる田植、稲刈り等が相対的に辛い作業として浮び上つてきたものと思われる。

第18表　農作業別主婦の従事者一覧表

I　田作（米一毛、米麦二毛、複合）

調査対象者	計 100%(905)	主農 100%(681)	兼農 100%(199)	計のうち「辛い」というもの %
作業分類				
1 選種	29.0	25.1	40.7	1
2 浸種	29.0	24.8	42.2	1
3 苗代一切	37.2	36.0	39.7	3
4 本田耕起				
(1)荒起より	16.9	17.6	13.6	26
(2)代掻直前まで	15.1	16.2	12.1	
5 元肥	31.5	29.5	37.7	4
6 本田代掻				
(1)荒代掻より	12.6	12.8	10.1	8
(2)植代掻まで	12.4	12.3	10.6	
7 本田整地	5.2	5.0	5.0	13
8 苗取り	67.6	70.0	58.8	10
9 苗運搬	37.5	36.0	42.7	3
10 挿植(田植)	69.3	70.5	65.3	48
11 追肥	30.4	28.5	36.7	1
12 田草取り	68.8	69.3	65.8	50
13 中耕	32.7	31.3	36.2	5
14 溜排水	19.6	14.4	35.2	3
15 薬剤散布	18.8	17.9	21.6	8
16 畦畔草取り	40.2	39.8	40.2	4
17 畦塗り	22.3	20.6	26.6	21
18 その他の管理作業	18.3	14.4	29.6	1
19 稲刈り	75.0	76.7	68.8	22
20 稲運搬	43.5	43.8	42.2	26

調査対象者	計 100%(905)	主農 100%(681)	兼農 100%(199)	計のうち「辛い」というもの %
作業分類				
21 稲架作り	19.9	20.0	18.6	4
22 稲架取壊し	24.2	24.8	22.1	—
23 稲乾燥	42.4	42.1	44.2	1
24 稲こき	40.0	41.4	35.7	6
25 脱穀	54.7	57.0	47.2	16
26 調整	27.2	28.5	23.6	1
27 籾乾燥	40.0	42.0	36.2	0
28 籾運搬	26.9	27.0	27.6	5
29 籾摺(籾摺賃)	34.6	36.6	29.6	2
30 整地	12.4	11.6	16.1	4
31 播種	29.7	29.8	31.7	1
32 中耕除草（土入、土寄を含む）	32.7	33.9	30.2	4
33 選種消毒	13.5	12.0	19.1	—
34 麦播	38.0	39.4	36.7	1
35 麦踏	32.8	34.1	29.6	0
36 麦こき	37.2	40.0	30.2	19
37 定植	7.0	7.5	6.0	—
38 先切り	5.2	6.2	2.5	4
39 その他の管理作業	8.3	6.9	13.6	4
40 俵装	6.9	7.5	5.5	6

II　畑作

調査対象者	計 100%(905)	主農 100%(681)	兼農 100%(199)	計のうち「辛い」というもの %
作業分類				
1 選種消毒	17.3	16.9	19.6	—
2 苗床(仮植床含む)	23.0	24.1	19.6	1
3 整地	33.1	31.6	38.2	22
4 元肥	37.6	37.2	40.0	1
5 植付	47.6	47.4	47.7	1
6 播種	51.7	51.1	51.8	0
7 追肥	42.5	42.4	44.7	0
8 中耕除草（土寄せを含む）	54.4	54.8	53.8	11
9 間引	46.2	47.0	43.7	—
10 薯切り	28.4	29.5	25.6	3
11 薬剤散布	19.0	18.5	22.1	2
12 支柱建	22.4	23.1	19.1	1
13 灌水	15.1	14.7	16.1	1
14 日覆	16.0	16.7	14.6	—
15 敷草	23.4	23.5	23.1	1
16 畦畔整理	19.7	19.5	19.6	1
17 刈取り	48.3	49.2	45.7	6
18 葉落し	10.4	11.0	9.5	1
19 運搬	30.3	28.6	34.7	15
20 乾燥	27.2	27.8	26.1	2
21 脱穀調整（乾燥を含む）	26.7	27.5	24.1	5
22 堀取り	39.9	40.2	38.7	4
23 選別	27.2	27.9	24.6	—
24 定植	23.9	25.0	20.6	—
25 積芋	16.5	17.2	13.6	—
26 子引	7.4	8.4	4.0	—
27 分配	5.7	5.9	4.5	—
28 籾殻(搬出を含む)	14.5	15.1	12.6	—

調査対象者	計 100%(905)	主農 100%(681)	兼農 100%(199)	計のうち「辛い」というもの %
作業分類				
29 収穫	45.7	47.9	39.7	8
30 土落し	20.1	22.0	15.1	1
31 種落し	20.8	22.9	14.6	2
32 敷地	4.1	4.3	3.5	—
33 敷草(除草を含む)	9.3	9.5	8.5	—
34 根出し	4.0	4.4	3.0	—
35 元寄せ	10.9	11.2	11.1	2
36 茶摘(整枝を含む)	10.7	10.6	12.1	—
37 採苗	5.3	5.7	4.5	—
38 洗滌	7.2	7.5	6.5	—
39 芋切り	9.9	9.5	12.1	1
40 串刺	2.8	3.4	1.0	—
41 串抜き	2.2	2.6	1.0	—
42 抜取り	3.3	3.5	3.0	20
43 葉切り	3.0	3.4	2.0	4
44 根茎切り	3.9	4.1	3.5	3
45 先切り	2.7	2.8	2.5	8
46 湯浸し	1.7	1.9	1.0	7
47 剥皮	2.7	2.3	4.0	8
48 結束	7.7	8.5	6.0	1
49 堆積発酵	3.5	3.7	3.5	3
50 仮挿及抜取り	1.2	1.5	0.5	—
51 切揃え	3.5	4.4	1.0	—
52 蒸煮	1.5	1.8	1.0	—
(1)釜の据付				
(2)及び取除き				
53 棟掛	1.5	1.6	1.5	—
54 縄下げ	1.3	1.5	1.0	—
55 その他の管理作業	4.6	4.4	6.0	2

Ⅲ 野菜作

	計	主農	兼農	計のうち「辛い」というもの
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)	%
作業分類				
1 整地	34.9	32.3	42.2	1
2 元肥	37.0	36.0	40.2	—
3 播種	46.2	45.4	46.7	0
4 追肥	40.2	39.5	41.7	0
5 中耕除草	44.8	43.9	46.2	0
6 支柱建	29.3	28.6	30.7	—
7 誘引	14.8	14.7	14.6	—
8 薬剤散布	20.7	19.8	24.6	—
9 灌水	20.6	19.5	23.6	—
10 日覆	17.8	18.4	16.1	—
11 敷草	21.1	21.1	22.1	—
12 その他の管理作業	19.2	17.5	24.6	—
13 乾燥	13.7	14.5	11.6	—
14 苗床	21.3	21.7	20.1	—
15 定植	26.5	27.3	24.1	1
16 摘芯	16.2	16.4	15.6	—
17 誘引	7.8	8.2	7.5	—
18 交配	6.1	6.0	6.0	—
19 間引	30.2	32.6	30.7	0
20 敷ワラ敷込	19.8	21.0	17.6	—
21 収穫	42.0	41.7	40.2	1
22 種落し	19.6	20.3	16.6	—
23 土落し	20.7	21.6	18.6	—
24 選別	21.4	23.1	16.0	—
25 結束	14.9	16.3	9.5	—
26 荷造	7.5	8.8	3.0	—

Ⅳ 果樹作

	計	主農	兼農	計のうち「辛い」というもの
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)	%
作業分類				
1 苗床	1.2	0.9	1.0	18
2 耕起	4.2	4.3	3.0	8
3 整地	3.5	3.2	3.5	16
4 元肥	6.4	6.6	5.5	2
5 定植	3.9	4.0	3.5	3
6 追肥	7.8	7.9	6.5	3
7 中耕除草	7.3	8.5	7.0	5
8 薬剤散布	7.4	7.6	6.5	10
9 灌水	4.2	4.4	3.5	—
10 敷ワラ敷込	7.0	7.5	5.0	—
11 下葉掃除	3.4	3.5	2.5	—
12 管理	2.9	2.3	4.5	—
13 剪定	2.3	2.2	3.0	—
14 整枝	1.9	1.9	2.0	—
15 施肥	6.3	6.2	6.5	—
16 摘花	5.1	5.4	3.5	—
17 摘果	5.5	5.9	5.0	—
18 袋掛	6.3	6.9	4.5	4
19 除袋	5.6	6.0	4.0	—
20 その他の管理作業	3.4	3.1	4.0	10
21 収穫	9.3	9.8	7.0	4
22 選別	7.1	7.5	5.0	—
23 箱詰	6.4	6.8	5.5	—
24 荷造	3.2	3.7	2.0	3

Ⅴ 養蚕

	計	主農	兼農	計のうち「辛い」というもの
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)	%
作業分類				
(1) 桑				
1 耕転施肥	7.3	8.2	4.5	—
2 中耕除草	12.5	14.5	6.5	—
3 結束	8.8	10.3	4.5	—
4 株通し	5.4	6.3	3.0	4
5 春刈	9.7	10.7	6.5	—
6 枝条整理	7.1	8.2	3.5	—
7 防除	5.2	6.6	1.0	—
8 売桑収穫	2.8	3.4	1.0	8
9 間作緑肥作業	3.5	4.3	1.0	—
10 その他	2.1	2.6	0.5	—
(2) 養蚕				
1 催青	2.2	2.6	1.0	15
2 蚕室	13.4	15.9	5.5	—
3 蚕具清掃	14.8	17.3	7.5	—
4 消毒	12.9	15.3	6.0	1
5 棚拵え	12.9	15.0	7.0	—
6 蚕座振の建設	3.6	4.4	1.5	—
7 採桑	15.5	18.2	7.0	11
8 給桑	15.9	18.6	7.5	12
9 除沙	13.5	16.0	6.5	3
10 蚕室清掃	15.2	17.9	7.0	1
11 防除	10.7	12.9	4.0	—
12 上蔟（族中保護を含む）	12.5	14.7	4.5	5
13 収繭	15.7	18.6	7.0	—
14 毛羽取	14.7	17.0	7.5	—
15 選繭	15.4	17.9	7.5	2
16 収繭後の片附	14.0	16.2	7.5	—

Ⅵ 酪農

	計	主農	兼農
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)
作業分類			
(1) 飼料の調理、給与（給水）			
1 飼料材料の細断	6.3	6.6	5.0
2 粉砕	4.0	4.1	3.5
3 引割煮熟	5.9	6.0	5.0
4 麦、豆等の水浸及び芽出し	3.5	4.4	1.0
5 飼料の混配合等の調理	5.7	6.2	4.0
6 給与	7.8	8.4	6.0
7 給水	8.7	9.5	6.0
8 その他	2.0	2.5	0.5
(2) 手入、運動			
1 皮膚、被毛、蹄等の手入	2.5	2.3	3.5
2 追運動	2.0	1.9	2.0
3 ひき運動	1.5	1.6	1.5
4 その他	0.6	0.6	0.5
(3) 敷料搬出入			
1 敷わら	6.7	7.5	4.0
2 敷くさの舎房への投入	5.2	5.9	3.0
3 糞かき、厩肥（尿を含む）の最寄り場所（堆積所、尿貯蔵所等）までの運搬	5.4	5.9	3.5

	計	主農	兼農
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)
作業分類			
4 搬出	3.6	3.8	3.00
5 その他	1.1	1.2	1.0
(4) 搾乳及び牛乳処理			
1 乳房の清拭	3.6	3.8	3.5
2 搾乳準備	3.8	4.1	3.0
3 搾乳	3.3	3.7	2.5
4 搾乳後のろ過	3.2	3.7	2.0
5 冷却	2.9	3.2	2.0
6 搾乳関係器具の消毒	3.0	3.2	2.5
7 殺菌等あと片附	2.5	2.8	2.0
8 その他	1.1	1.3	0.5
(5) 牛乳運搬			
1 冷却してある輸送缶を最寄りの搾乳所まで運搬する作業	0.4	0.6	—
2 畜力を利用する場合はその装備作業	0.2	0.1	—
3 その他	—	—	—
(6) 放牧			
放牧場、山林、河川敷、土堤の駐牧場まで		—	
1 往	0.8	0.9	0.5
2 復	0.6	0.6	0.5
3 その他	0.2	0.3	—

Ⅴ 養鶏

	計	主農	兼農
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)
作業分類			
(1) 飼料の調理、給与(給水)			
1 飼料材の細断	18.8	19.1	17.6
2 粉砕	14.3	14.7	12.6
3 飼料の混配合	18.9	18.9	18.6
餌の調理			
4 給与	24.3	25.0	23.1
5 給水	24.3	24.8	23.1
6 その他	9.4	10.3	6.0

	計	主農	兼農
調査対象者	100% (905)	100% (681)	100% (199)
作業分類			
(2) 採糞、糞乾燥			
1 糞かき	19.7	19.7	19.6
2 糞乾燥場までの運搬	10.3	11.0	7.5
3 乾燥	8.3	8.5	7.5
4 集積	8.4	9.0	6.5
5 梱包	2.2	2.3	1.5
6 その他	2.2	2.3	1.5
(3) 採卵			
1 鶏舎における集卵	20.1	20.6	19.1
2 選卵場までの運搬	5.3	5.1	6.5
3 その他	2.4	2.3	3.0
(4) 選卵、箱詰			
1 鶏卵の汚染除去	4.8	10.3	8.5
2 破損卵の抜出し	8.4	8.8	6.5
3 大小別選別	6.1	6.9	3.5
4 箱詰	3.2	3.8	1.5
5 その他	1.3	1.5	1.0
(5) 鶏卵の販売			
1 最寄りの集荷場までの運搬	4.5	4.1	5.5
2 その他	1.7	1.6	1.5

注 (1) Ⅴ(8)の作業についてはとくに「辛い」というものはなかつたため計のうち「辛い」というもの」欄は省いた。

(2) 主農、兼農が不明のものは「計」中には含まれるが、別個に欄を設けて示すことは省略した。

(3) 表の農作業中、若干のものについて次に解説を掲げる。

農作業解説

Ⅰ 田作

1 せんしゅ　種子の選別

2 しんしゅ　播種直前の種子を水に浸漬して発芽を迅速斉一ならしめる。

4. こうき　こうじよ(耕鋤)ともいう

人力、畜力、トラクター等で耕土を掘起し、反転する作業

(1) あらかき(あらおこし)　田植前の水田を、牛馬又は人力で耕起し、灌水して、馬耕により土塊を十分に砕く

(2) しろかき　田植前の本田を鍬又は馬くわで土塊を砕き均一にし直ちに田植えができるようにする。

5. もとごえ　作物を栽培する前に、あらかじめ田畑に肥料を施す

7. せいち　耕地の条件を作物栽培に適するように整える作業

13. ちゆうこう　既に作物生育中の圃場の単粒化した土壌を砕いて団粒構造にし、過乾多湿になるのを防ぎ、保水、通気を可良にして、作物の根の吸収作用、呼吸作用等を促進し、その発育伸長を助けるための作業

普通除草を兼ねるので中耕除草といわれる。

21. 稲架(はざ)

26. ちようせい　収穫したままの収穫物は、さらに手を加えて真の生産目的物を分りしなければならない場合がある。この操作が脱穀又は脱粒というのであるが、こうしてえられた生産物でも、また直接に生産目的物を収穫した場合でも、そのままでは商品として販売するにも、また種子として使用するにもきわめて価値の低いものである。したがつて何らかの方法で生産物の価値を高めることが必要になる。

この目的で生産物に加えられる操作を総称して調製という。

29. もみすり　十分乾燥した籾を廻転しつつある臼に入れて、籾殻と玄米に分ける。

37. ていしよく　苗として育てていた植物を本式に植えつける。

Ⅱ 畑作

2. 苗床　甘しよ、甘らん

仮植(かしよく)播種から定植の間に生育、土地、気候、労力等の関係から仮に短時日の間植えておく

10. つるきり　甘しよ

12. 支柱樋　まめ

15. しきぐさ　強い日射による地温上昇と過度の乾燥を防ぎ、作物の根の生理を正常にするため、その根際に乾草、わら、落葉、こけ、しだ等をしきつめる

18. 葉落し　ラミーの葉を落す作業

22. 掘取り　大根、ねぎ、にんじん

26. 27.　きうり、なす、かぼちゃ

28. めかき　さといも、馬鈴薯

34. ～ 36.　茶

37.　ラミー

38. ～ 41.　こんにやく

39. いもきり　こんにやく芋をきる

40.　串にさして乾燥さす

41.　串からぬく

42. ～ 49.　ラミー

47. 50.　こりやなぎ

51. 52.　みつまた、こうぞ

53. 54　ほつぶ

畑作は、作物の種類が多いので、３１までは大体共通だが、以下は作物による特殊な作業である

Ⅲ　野菜作はとくに野菜生産高の多い経営形態をさし、農作業としては畑作と共通のものが多いので説明は省く。

Ⅳ　果樹作

11. したばそうじ　いちご

13. せんてい　栽培上有利なように作物の枝条を剪除する。

Ⅴ　養　蚕

3. けつそく　蚕や枝条を風害から避ける目的で、わら或は縄で支柱に縛る。

4. かぶとおし　春蚕期に伐採収穫されたあとに残る枝を株の形、以后の伸長などを見定めて切りもどす作業

7. ぼうじよ　病虫害防除

9. かんさくりよくひ　桑の樹間に緑肥（生草のまま与えて肥料にする作物）を作る。

(2)

1. さいせい　蚕卵内の胚子が健全に発育し、一斉に孵化しうるように、適当な温湿度の下において保護すること。

9. じよさ　蚕に給桑が続けられるにつれ、蚕座には残桑や蚕ふんが堆積する．これを蚕沙といい、これを除去すること。

(12) うえつみ（ぞくちゆうねど）　熟蚕になると族（まぶし）（柴や木の枝で作る）に入れる。熟蚕は足場を作り糸を吐き初める。糸をうまく吐くように上族させることが上積で、その間うまく糸を吐くよう温度、湿度等に注意することが族中保護

短時間に上族させるため、多数の人手を要し、労働のピークが現れる。

13. しゆうけん　繭を族（まぶし）からかきとる。

14. けばとり　収繭のすんだ繭をひろげ乾燥させ、毛羽取器にかけて繭綿を除く。

収繭后、農家では繭の毛羽を取るがこれは集められて、絹糸紡績の材料に向けられる。

15. せんけん　精繭と屑繭を区別する。

4. 農機の使用

おもな農機について、主婦が使用するものをたずねたところ、答は次のとおりで、脱穀機、荷車、リヤカーのほかは、使用するものが少い。

（対象者総数を１００とした使用者の比率）

動力耕耘機	0.8 %
〃 噴霧機	2.1
〃 散粉機	3.0
〃 脱穀機	7.3
〃 籾摺、麦摺機	1.4
精米、精麦機	2.5
動力カッター	3.2
オート三輪車	—

畜力、人力作業機	砕土機	1.5
	カルチベーター	1.8
	足踏脱穀機	10.7
	牛馬車	1.5
	荷車、リヤカー	25.6
乾燥機		0.8

ただし、脱穀機、荷車、リヤカーも含めて農機の使用については、主婦自身が主になつて操作を行なつていない場合、使用すると回答しないこともあるので、その点を考慮に入れなければならないが、しかし、たとえば動力耕耘や動力噴霧機、散粉機をとつてみてもこれらの農機を使用する婦人が、1～3%程度にとどまつていることは、田作だけでも、本田耕起、薬剤散布に従事する婦人がそれぞれ2割近くいることと比べて、婦人の農機使用率はあまり高くしないことがうかがわれる。

5. 農作業時間

対象者のほとんどは季節によつて農作業の時間に長短があるが、ごく普通の時の1日の農作業時間及び一番長く働く時の農作業時間は第19表のとおりで、繁忙時はもちろん普通時にも相当に長時間働いている。

普通時の1日の農作業時間としては、8時間以上働くものが71%（主農75%、兼農61%）をしめている。

第19表　主婦の農作業時間

		計	6時間未満	6～8時間	8～10時間	10～12時間	12時間以上
		%	%	%	%	%	%
普通の時	計	100	9	20	49	19	3
	主農	100	6	19	52	19	4
	兼農	100	20	19	42	17	2
	20代	100	7	19	55	19	—
	30代	100	7	15	51	22	5
	40代	100	7	21	52	16	4
	50代	100	15	25	41	17	2
もつとも長く働く時期	計	100	2	2	6	32	58
	主農	100	1	2	5	31	61
	兼農	100	3	1	10	35	51
	20代	100	1	—	6	38	55
	30代	100	1	1	5	30	63
	40代	100	1	2	4	37	56
	50代	100	5	3	9	27	56

もつとも分布の多いのは8～10時間で48%、10時間以上は22%（主　23%　兼　19%）、12時間以上働くものも3%（主　4%、兼　2%）ある。

もつとも長く働く時期としては6月の田植時をあげるものが圧倒的に多く、ついで5月、7月、刈入時となつている。これらの繁忙時の農作業時間は普通時よりも著しく長くなり、10時間以上が90%（主　92%、兼　86%）、12時間以上が58%（主　61%、兼　51%）に及ぶ。

主農と兼農の主婦の農作業時間にはかなりの差がみられ、普通時、繁忙時とも主農のほうが長く働くもの多い。しかし兼農では普通時に10時間以上の長時間働くものは主農とあまり差がないのに対して、6時間未満の短時間のものは主農よりはるかに多く、兼農主婦の農作業時間は短いものから長いものまで巾広く分布していることが示されている。

主婦の年令別にみると、30代に長く働くものが多く、とくに普通時10時間以上、繁忙時12時間以上の長時間働くものの多いことが目立つ。　20代の主婦は乳幼児をもつものが多いためか、30代よりは作業時間が短かく、40代とほぼ同程度である。50代では補助的働き手になるものが多いので、当然作業時間の面でも他の年代とはかなり差が出てくるが、それでも普通時8時間以上が60%、繁忙時12時間以上が56%をしめている。

6. 10年前と比べて農業労働は楽になつたか

全般的にみて10年前と比べて農業労働は楽になつたと思うかどうかという問に対しては、回答者（10年前に農作業をしていたもののみ回答、対象者総数の88%）の大部分が作業面でも、時間的にも楽になつたと答えている。作業面では楽になつたと思うものが86%、変らない11%、辛くなつた3%であるのに対して、時間的には楽になつたと思うものは70%、変らない24%、かえつて余裕がなくなつた6%で、時間的によりは作業面で楽になつたと感ずるもののほうが多い。これはさきに労働力充足状況の項でみたとおり、ふだんの労働力が足りないものが23%あり、これを補うため、労働時間がある程度投入されているものであろう。

第20表　10年前との比較

計	作業面で			時間的に		
	楽になつた	辛くなつた	変らない	楽になつた	余裕がなくなつた	変らない
% 100(798)	% 86	% 3	% 11	% 70	% 6	% 24

婦人少年局が昭和36年9月に全国各地で開催した農村婦人問題懇談会でも家事労働が合理化され、より短かい時間で処理できるようになつた場合に、浮いた時間を生産労働にあてると答えたものが多い。

7. 産前産後の休養

対象者の出産経験のうち、もつとも調査日に近い出産について、産前産後に農作業をどのくらいに休んだかをみると、産前には出産前日まで農作業をしたものが多く対象者の６９％をしめ、何日か休んだものは２２％にすぎない。産後は３０日以上農作業を休んだものが６２％でもつとも多く、ついで２０～３０日が２０％、１０～２０日が７％、１０日未満が５％となつている。また産後床についていた日数をみると、４５％は１０日未満で、１０～２０日が３３％、２０日以上床についていたものは１７％である。

第２１表　産前産後の休養

計	産前			産後								
	農作業を休んだか			床についた日数				農作業を休んだ日数				
	前日まで仕事をした	何日か休んだ	不明	10日未満	10～20日	20日以上	不明	10日未満	10～20日	20～30日	30日以上	不明
% 100	% 69	% 22	% 9	% 45	% 33	% 17	% 5	% 5	% 7	% 20	% 62	% 6

労働者婦人少年局が昭和２５年に実施した「農村婦人生活実態調査」（５カ村）では、子持ちの婦人中産前に何日か農作業を休んだものは１３％、産後に３０日以上農作業を休んだものは４１％であるから、産前産後に休養をとるものが次第にふえていることがうかがえる。

8. 農　休　日

農休日のあるものは４１％で、その大半は月に何回と、きまつており、回数としては１回又は２回が多い。農休日のあるものの十はその日に農作業を休んでいる。

農休日のないものは５９％で、休む日としては雨の日が多い。

第２２表　農　休　日

計	ある								
	小計	月の回数					農休日に休むか		
		1回	2回	3回	4回	その他	休む	休まない	不明
% 100	% 41	% 15	% 10	% 2	% 3	% 11	% 29	% 10	% 2
	ない								不明
	小計	どんな日に休むか							
		雨の日	他の用のある日	祝祭日	その他	不明			
	% 59	% 41	% 19	% 6	% 10	% 1	% 0		

9. 農業経営参加状況

作付計画、種苗、肥料、材料などの購入、生産物の販売など、農業経営のやり方について、夫（又は経営を主としてやる人）から相談をうけるか、又は主婦自身が主になつてやるものの割合をみると、第２３表のとおり、大多数のものが一応なにかの面で相談をうけており、自分が主になつてやるものも若干ある。

第２３表　主婦の農業経営参加状況

		作付計画	種苗の購入	肥料の購入	材料購入	畜類売買	畜舎の改善	生産物販売	その他
相談をする	計	% 71	% 58	% 50	% 52	% 44	% 39	% 61	% 3
	主農	76	63	52	57	49	43	66	3
	兼農	53	45	45	39	27	27	44	2
自分が主になる	計	11	10	9	4	5	2	10	1
	主農	3	3	3	1	2	1	5	1
	兼農	36	35	30	14	12	6	25	2

例えば対象者のほとんどに関連があると思われる作付計画についてみると、対象主婦の７１％が相談をうけ、１１％が自分が主になつており、生産物の販売については、主婦の６１％が相談をうけ、１０％が自分が主になつてやつている。兼農の主婦は主農に比べて、自分が主になつてやるものがはるかに多く、作付計画では主農の３％に対して兼農では３６％が自分が主になつてやつている。

10. 農業知識の習得等

農業技術や経営に関して講習会その他の会合に出席したことがあるものは対象者の３２％で、多くのものは出席したことがない。出席するものも大部分はたまにある程度で、たびたび出るものは全体の７％である。

第２４表　農業関係講習会等出席状況

計	ある			ない
	計	たびたび	たまに	
% 100	% 32	% 7	% 26	% 68

主婦が農業技術や経営等の知識をおもにどこから得るかをみると、家のものにきく４８％、他人からきく３３％が多数をしめているが、会合などで得る、本で得るものもそれぞれ２２％、１４％、いる。経験によると答えたものは２０％となつている。

第２５表　農業知識を得る方法

対象者総数	家のものにきく	他人からきく	会合などで得る	本で得る	経験によると	その他
% 100	% 48	% 33	% 22	% 14	% 20	% 4

注　多答であるため、対象者総数を１００とすると計は１００％をこえる。

農業基本法についての関心をみると、農基法の名前を知つているものは全体の４５％（主農４７％、兼農３９％）で主農の主婦のほうが多い。名前だけでなく、農基法がどんなものかを多少でも内容について知つているものは１４％（主農１４％、兼農１３％）にすぎない。

11　将来への意向

対象主婦が、自分の生活として今後も農家として続けてやつていきたいと思つているかどうかをたずねたところ、７３％は今後も農家としてやつていきたいと答えている。（主農７８％、兼農５７％）、農家として続けてやつていきたいと思わないとはつきり答えたものは１０％あり、主農（７％）よりも、兼農（２１％）に多い。ほかになりゆきにまかせると答えたものが１７％（主１５％　兼２２％）みられる。

第２６表　農家継続希望状況

	計	農家として今后もやつてゆきたい	やつてゆきたいと思わない	なりゆきにまかせる
計	１００％	７３％	１０％	１７％
主　農	１００	７８	７	１５
兼　農	１００	５７	２１	２２

さらに、子どものうち少くとも１人はあとつぎとして農業をつづけてやつてほしいかという質問に対しては、６３％が子どもも今後農家としてやつてもらいたいと答えている（主農７２％、兼農３４％）。やつてもらいたいと思わないと答えたものは１２％で主農（６％）よりも兼農（３２％）にめだつて多くなつている。子どもの意見にまかせるというものもかなり多く２５％をしめている。（主２３％、兼３３％）

第２７表　子どもに対する農業継続希望状況

	計	子どもも今后農家としてやつてもらいたい	やつてもらいたいと思わない	子供の意志にまかせる
計	１００	６３％	１２％	２５％
主　農	１００	７２	６	２２
兼　農	１００	３４	３２	３４

上の２表をあわせてみると、本調査の対象地点は農業率の高い農村なので、全体としては将来も農業継続の意向をもつものが当然大多数をしめるが、継続を希望しないものも主農に１割弱、兼農には相当数みられる。主農と兼農ではかなりはつきりした差が認められ、主農では自分の代はもちろん、子どもの代になつても――子どもの意志にまかせるというものが幾分ふえてはいるが――依然７割余が積極的に農業継続を希望しているのに対して、兼農では自分の代はともかく、子どもにも農業継続を積極的に希望しているものは$\frac{1}{3}$程度で、かえつて子どもには農業継続を希望しないものが$\frac{1}{3}$となつている。

Ⅳ　主婦と家庭生活

1.　家庭管理

仕事（農業）の配分、家計管理、村のつきあい等家庭管理については従来、婦人に委ねられない場合が多く、昭和２５年に婦人少年局が実施した農村婦人の生活実態調査では仕事の配分をするのも家計の管理も家長の職能であり、はとんど男子特に世帯主の手に委ねられまとまつた買物などは家長の許可がなくてはできない状態で妻がこれら家庭管理を行なうものは１０％に満になかつたが、今回の調査では下の表にみるとおり、主婦の関与が伸びてきている。しかし、なお、仕事の配分、村の集会やおつきあいは夫が行なうものが大部分で、家計管理をする夫も５３％ある。家計管理については対象主婦の半数がおとなうに至つているが、東京都民生局の昭和３４年１０月の調査では家計管理者は主婦が圧倒的に多く、都市とはなお大きなひらきがある。

第２８表　家庭管理状況

	農家総数	本　人	夫	嫁	しゅうとめ（母）	しゅうと（父）
家計の管理者	１００％	５０％	５３％	０％	８％	３％
仕事のわりふりをきめる人	１００	２８	８０	０	２	３
村の集会に出る人	１００	２８	８１	１	２	３
その他村のつきあいに出る人	１００	３５	８２	１	５	５
食事をきめる人	１００	９４	２	５	１３	０

食事をきめる人は世帯責任者の妻である本人が圧倒的に多いが、世帯責任者の妻でないしゅうとめ１３％、嫁５％もある。

2.　家事の役割の分担

各種の家事を家族員の誰がやつているかをみると、炊事、屋内掃除、洗濯、縫物、買物等は本人が行なつているものが大部分であるが、屋外掃除、風呂たき、風呂掃除も５～７割がやつている。姑、嫁、１５才以上の娘がこれらの家事を受けもつたり、あるいは主婦とともにしたりしている場合もかなりみられ、姑では食事の仕度、買物、風呂たきが多く、嫁、娘では洗濯、食事の後片付、掃除が多い。主婦のやることで最も少ないのはまきわり（１７％）、たきぎとり（３７％）である。夫はあまり家事は行なつていないが、夫の仕事としては、まきわりが多く、次いでたきぎとり、屋外掃除となつている。１５才以上の息子もこれらの家事を手伝つている。しかし夫が比較的に行なつているたきぎとり（３８％）にしても本人が同程度（３７％）行なつており、屋外掃除も

ふえ、少2.1%と人をけたうちかの方がはるかに多い。さきに主婦の7割は農作業の基幹労働力となっていることをみたが、これに加えて家事労働の面でも一家の支柱として家事の大半を負担しており、さらに、病人の世話、子どもの世話なども中心になって行なっているのでその負担はきわめて大きい。

第29表　家の仕事の分担

		対象者総数(905)	本人	夫	息子 15才未満	息子 15才以上	娘 15才未満	娘 15才以上	嫁	しうとめ(母)	しうと(父)	その他
家事 炊事	食事の仕度	100%	93%	1%	1%	0%	5%	11%	11%	14%	—%	3%
家事 炊事	後片付け	100	89	1	1	1	8	14	15	8	—	5
家事 掃除	屋内	100	82	2	5	1	10	19	13	10	0	6
家事 掃除	屋外	100	66	21	12	9	8	10	9	10	2	5
家事	洗濯	100	96	1	1	1	8	19	17	10	0	4
家事	ぬいもの	100	91	1	0	0	1	12	16	10	0	3
家事	買いもの	100	87	10	1	3	4	7	5	13	2	2
家事	風呂たき	100	47	6	8	7	13	10	7	17	3	5
家事	風呂掃除	100	67	4	6	4	6	7	11	10	1	4
家事	まきわり	100	17	53	4	18	1	1	1	1	4	3
家事	たきぎとり	100	37	38	1	13	2	2	4	2	2	2
家事	病人の世話	100	65	3	—	0	0	2	5	7	1	2
家事	子どもの世話 乳児	100	18	0	0	0	0	1	6	3	—	0
家事	子どもの世話 幼児	100	37	1	0	0	1	1	6	7	0	0
家事	子どもの世話 学令以上	100	51	3	0	1	1	3	3	4	—	0
家事	勉強をみる	100	45	24	1	8	2	6	5	1	—	1

註　家事をするものが重複している場合があるので合計は100%をこえる。

5.　主婦の家事従事状況

衣、食、住、その他につき本人が行なう家事作業49種類について、1日に必ずするもの、週にするもの、月にするもの、年間にするものに分けて調査したものが第30表である。

第30表　主婦の家事作業別従事状況

	1日のうちに必ずするもの	左のうち農繁期にはぶくこともあるもの(1日のうちに必ずするもの=100)	週にするもの	月にするもの	年間にするもの
食					
1.食品の買物	25%	13%	30%	2%	1%
2.食事の用意	82	7	1		
3.食事の後片付け	80	5	1		
4.晩酌の世話	12	10	9	2	1
5.庖丁とぎ	1	(67)	16	19	3
6.台所の整理整頓	27	20	26	9	1
7.食器戸棚の清掃	13	21	34	14	2
8.漬物をつける	4	19	15	17	49
9.常備食をつくる	1	(11)	6	10	18
10.みそ作り					77
住					
1.火のしまつ	83	2	1		1
2.夜の戸締り	74	1	1		
3.家族の寝床準備	49	5	3		
4.〃寝床片付け	48	5	3	1	
5.生花等の室内装飾	2	21	17	7	4
6.屋外掃除	20	18	28	3	
7.えんとつ掃除	1		9	18	6
8.風呂の水汲み	27	4	12	2	
9.風呂わかし	34	5	10	2	
10.風呂の後しまつ	39	4	11	2	1
11.障子はりかえ				4	66
12.神棚、仏壇の掃除	6	20	15	19	22
13.供物の世話	18	7	9	9	8
14.ガラス拭き			5	16	26
15.大掃除				2	74
16.花壇の手入れ			3	5	10

衣	1日のうちに必ずするもの	左のうち農繁期にはぶくこともあるもの（1日のうちに必ずするもの＝100）	週にするもの	月にするもの	年間にするもの
1.下着小物の洗濯	54	19%	24%	1%	%
2.大物洋服類の洗濯	6	11	23	15	8
3.アイロンかけ	4	26	21	8	2
4.靴みがき	3	23	5	5	4
5.毎日の衣類の手入れ	15	16	11	5	2
6.季節衣料の収納			1	8	37
7.虫干し			1	1	69
8.衣類仕立	1		3	12	29
9.雑布ぬい	1		4	21	16
10.つくろい物	6	56	29	23	6
11.ふとん干し	4	63	42	21	6
12.ふとん直し			2	2	73
13.洗い張り				2	44
その他					
1.買物	11	16	22	16	9
2.家計簿の記入	22	8	3		
3.乳児の世話	13	3			
4.幼児の世話	33	5	1		
5.子どもの勉強をみる	20	13	14	2	
6.来客の接待	20	7	16	12	8
7.PTA出席			2	25	19
8.村のつきあいに出る			3	23	15
9.病人の世話	4	3	1	2	15
10.手紙かき			4	14	16

食について

食事の用意、食後の後片づけは大部分のものが毎日行ない、農繁期でもはぶかれることは少ないが、それ以外の作業を毎日行なうというものはあまり多くなく、台所の整理整頓、食品の買物を行なうものもそれぞれ3割未満であり、これらについては農繁期にはぶかれる場合もある。食品の買物や食器棚の清掃は毎日というよりむしろ週に行なわれており、みそ作り、漬物をつける、常備食をつくる、は年間に行なわれている。みそ作りをするものは77%に及んでいる。ブロック別におおよその傾向をみると、毎日行なうことの多い炊事の従事率が高いのは中国、中部、東北で炊事の従事率が低いのは近畿、四国、関東の主婦である。週に台所の整理整頓、食器棚の清掃などを行なうのが多いのは四国、中国、中部の主婦である。食品の買物を週にまとめてする傾向がややみられるのは中部、近畿、四国、関東の主婦である。

住について

火のしまつ、夜の戸締りは毎日必ずするものが大部分で、これは農繁期にも殆んどはぶかれないがその他の作業は比較的に行なわれず、家族の寝床の準備や片付けを毎日するものは約半数、風呂の後しまつ、風呂わかし、風呂の水汲みが3～4割ある。屋外掃除は週に、神棚・仏壇の掃除は、月に、あるいは年に、障子のはりかえや大掃除は年に行なうものが多い。ガラスふきも年に、または月に行なう。生花等の室内装飾、花壇の手入れなどを行なうものは少ない。

衣について

下着、小物の洗濯を行なうものが約半数あるほかには、衣生活につき毎日必ず行なわれる作業は少なく、行なわれているものも農繁期にはぶかれるものが多い。衣についての作業は週に、あるいは月にまとめて行なわれるもようで、大物、洋服類の洗濯、つくろいもの、ふとん干しなどはそうである。ふとん直し、虫干、洗張りなどは年に行なうものが多い。アイロンかけを週に行なうものは2割程度であるが、靴みがきをするものはきわめて少ない。下着、小物の洗濯について、ブロック別にみると、四国、九州では毎日やるものが多く、週にまとめてやる傾向みられるのは、中部、中国などの主婦である。

その他

その他の作業として毎日行なわれるものは比較的に少ないが、乳幼児の世話、子どもの勉強をみる等育児に関するものの数字は子どものないものをも含んでいるので、子どものあるものだけについてみればこの比率はもつと高くなると思われる。家計簿を毎日記入するものは約2割、買物は週にまたは月に行なうものが約4割ある。

さきに、農家の主婦は家事労働の支柱になつていることが、家の仕事の分担から明らかとなつたが、家事作業従事状況からみると、毎日行なう家事は、食事の仕度や後片づけなど食についての作業が中心になつている。1日のうちに必ずする家事を農繁期にはぶくこともあるものは28%で、大部分は農繁期でもなんとかやつている。このことは農繁期の農作業時間の長さからみて、主婦の大き

な負担がかかつていることを示すものといえよう。農繁期に比較的はぶかれがちな家事は、下着等の洗濯、つくろい物、子どもの勉強をみるなどであつて、食事の準備、後始末、風呂、火のしまつ、家族の寝床のあげさげ、子どもや病人の世話等ははぶかれることが少ない。ブロック別にみると東北では農繁期にもはぶかないものが多く、近畿、四国でははぶくものが多い。

第31表　農繁期の家事従事状況

	計	1日のうちに必ずする家事は農繁期でも必ずする	しないこともある	不明
計	100%	68%	28%	4%
東北	100	81	17	2
関東	100	64	29	7
中部	100	61	38	1
近畿	100	51	46	3
中国	100	61	33	6
四国	100	55	45	—
九州	100	68	26	5

4.　家計簿記帳、小遣

家計簿を記帳しているものは32%であるが、東京都民生局が昭和35年11月に都民婦人を対象に実施した調査によれば家計簿をつけている世帯は対象世帯の51.7%あり、都市にくらべると記帳者の割合はかなり低い。

第32表　家計簿記帳

計	つけている	つけていない	不明
100%	32%	67%	1%

ブロック別にみて、記帳しているものが多いのは中国、中部、近畿の主婦であり、少ないのは関東、東北、四国の主婦である。

さきに調査対象者の特性の項で述べたとおり、主婦の座についているものが9割を占めるが、それでも自由に使える小遣いのないものが3割近くある。自由に使える小遣のあるものでは家計から出す、夫からもらうなどが主なものであるが、副業でかせぐ、実家からもらう、姑からもらうなども若干あり、利子配当等は殆んどない。

第33表　自由に使える小遣

計	ある								ない	不明
	小計	夫からもらう	副業でかせぐ	家実からもらう	家計から出す	姑からもらう	利子配当等	その他		
100%	72%	30%	4%	3%	33%	3%	0%	6%	27%	1%

ブロック別にみると、自由に使える小遣のあるものが多いのは近畿の主婦で、家計から出すものが最も多い。四国では自由に使える小遣のないものの割合が高く、小遣のあるものでも夫からもらうものが多い。

5.　衣・食

家族の作業衣は市販品を買うものが過半数であるが、自分の作業衣は自家製というものと市販品というものがほゞ半分ぐらいずつある。自家製の場合では新しい作り方などとり入れていないものが多い。

第34表　作業衣の自家製、市販品別農家

		農家総数	自分の作業衣		家族の作業衣		自家製のもののうち、新しい作り方などをとり入れているもの		
			自家製	市販品	自家製	市販品	計	いる	いない
計		100%	57%	55%	36%	78%	100%	30%	70%
主兼別	主農	100	60	56	39	81	100	31	69
	兼農	100	55	56	29	76	100	24	76
本人の年令別	20—29才	100	59	56	31	84	100	38	62
	30—39才	100	61	54	38	80	100	32	68
	40—49才	100	59	55	34	80	100	35	65
	50—59才	100	56	59	39	78	100	19	81

（註）1.　自家製、市販品の別については解答が重複しているものがあるため合計は100%をこえる。
2.　新しい作り方などをとり入れているものの計は、この項についての解答者総数を100とした。

調査前1週間の魚、肉、卵、野菜等の購入状況をみると、魚類の購入が圧倒的に多く、加工食品、かんづめ類がこれに次いでいる。加工食品、かんづめ類は家事合理化に役立つていると思われる。野菜類はもちろん卵についてもかなりの自給が見込まれるが、購入している農家も若干みられる。肉、牛乳についてはいくらかの自給を考慮に入れたとしても、週間中に摂取しなかつた家の多いことがうかがえる。

第３５表　特定食品購入農家（調査日前１週間中に）

農家総数	肉類	魚類	かんづめ類	加工食品	牛乳	卵	野菜類
100%	32%	94%	47%	62%	19%	25%	13%

ブロック別にみると、肉類、魚類加工食品の購入率が高いのは近畿の農家であり、低いのは関東の農家である。かんづめ類の購入率も近畿の農家が高く、低いのは中国、九州の農家である。牛乳、卵の購入は東日本、九州の農家が高く、中国、近畿、四国の農家が低い。野菜類の購入は九州の農家が高く、中国、中部の農家が低い。

6　耐久消費財

第３６表　耐久消費財保有状況

農家総数	１００%
電気洗濯機	２０
電気冷蔵庫	２
電気炊飯器	１０
扇風機	６
ストーブ	１０
テレビ	３４
ラジオ	８１
ステレオ	１
トランジスターラジオ	１２
ドースター	２
魔法びん	２２
ミシン	６１
カメラ	１６
和たんす	９４
洋たんす	３４
はかり	７０
体温計	７４
勉強机 個別	４４
勉強机 共用	２５
乗用車・兼用車	２
モーターバイク・オートバイ・スクーター	２４
自転車	９１

耐久消費財の保有状況は左の表のとおりであるが、電気洗濯機２０%、電気冷蔵庫２%、電気炊飯器１０%、魔法びん２２%、ミシン６１%など家事労働軽減に役立つような消費財のうちミシンを除けば、普及率はあまり高くはない。これは勤労家庭の保有率とくらべるとかなり低い。（「勤労者家庭の消費生活水準と主婦の意識」（婦人少年局、昭和３７年）によれば、電気洗濯機５８%、電気・ガス、冷蔵庫３１%、電気釜６１%、まほうびん５９%）。テレビ、カメラなどレジャーのための耐久消費財の保有率も勤労者家庭にくらべて低い（前出「勤労者家庭の消費水準と主婦の意識」では、テレビ８１%、カメラ４８%となつている）。自転車は９１%で勤労者家庭の７７%より高くなつているが、これは生活環境上の必要性のちがいによるものであろう。ほしい耐久消費財として、電気洗濯機をあげているものが農家総数の３０%でもつとも多く、ついで電気炊飯器１４%、電気冷蔵庫１０%、テレビ９%などである。

7　居住環境

１人あたり部屋数はほぼ１室近く、１人あたり畳数は５.２畳で、全国平均４.２７畳（昭和３５年国勢調査）よりもかなり広い。

第３７表　１人あたり部屋数

計	１人あたり部屋数						
	0.5室未満	0.5～1室	1～1.5室	1.5～2室	2室以上	不明	平均
100%	9%	53%	29%	4%	4%	0%	0.96室

第３８表　１人あたり畳数（板の間の広さも含む）

計	１人あたり畳数					
	1～3畳	3～5畳	5～7畳	7畳以上	不明	平均
100%	12%	34%	27%	25%	2%	5.2畳

対象農家の９５%は自家風呂をもつており、これは勤労者家庭の５２%（婦人少年局の「勤労者家庭の消費水準と主婦の意識」昭和３７年８月）とくらべてはるかに多い。

第３９表　風呂の有無別農家

計	ある			ない	不明
	小計	個別	共用		
100%	95%	94%	1%	4%	1%

炊事用水源は水道、簡易水道、井戸（モーター）をあわせても５６%で、勤労者家庭の水道８７%（婦人少年局の「勤労者家庭の消費水準と主婦の意識」昭和３７年８月）にくらべをとはるかに低く、炊事用水源のうち屋外にあるものが３９%あるなど、家事労働が容易でないことを推しはかることができる。しかし、それでも昭和２５年の調査（婦人少年局「農村婦人の生活」）では、水道は全く用いられず、井戸が圧倒的に多かつたのにくらべると、この１０年間にかなりの改善が認められる。一方、つるべ井戸は１０%、流水、湧水も今日なお4～5%ではあるが用いられている。

第４０表　炊事用水源

農家総数	水源の種類								個別、共用別			使用場所		
	水道	井戸			簡易水道	流水	湧水	その他	個別	共用	不明	屋内	屋外	不明
		モーター	ポンプ	つるべ										
100%	18%	19%	29%	10%	19%	4%	5%	1%	75%	9%	17%	57%	39%	4%

注　水源の種類は重複するものが少数あるので合計１００%にならない。

ブロック別にみると、近畿、九州は、水道、簡易水道、井戸（モーター）を合わせると対象農家の７割に及んでいるのに対し、四国では３割にすぎない。つるべ、流れ、湧水の利用が多いのは四国、少ないのは近畿、関東である。炊事用に使用する燃料はまきが圧倒的に多く、都市ガスは全くない

し天然ガスも殆んどない。まき、木炭、もみがらなどの炊事が家事労働の負担を大きくすることは容易に考えられる。しかし、プロパンガス１７%、石油１９%、電気８%などを用いるものもあり、煮たきはいろり、かまど、コンロでしか行なわれていなかつた前回の調査時（昭和２５年）からみると改善のあとが認められる。

第４１表　炊事用使用燃料

農家総数	まき	木炭	石炭	コークス	電気	都市ガス	天然ガス	プロパンガス	石油	もみがらくず	その他	不明
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
100	91	27	2	0	8	—	0	17	19	17	1	0

注　燃料種類は重複するものがあるので合計１００%にならない。

概して東日本にくらべ、西日本の対象農家の方が、電気、プロパンガスの使用が多い。石油の使用率が高いのは、中部、東北の農家である。

8.　生活改善

かまど、流し、風呂などの生活改善を実行したことのある農家は全体の４７%あり、改善したところは、かまど、流し、風呂、台所全体などで、炊事関係が多い。主兼別では主農の方が兼農よりも生活改善を実行したものが多く、概して世帯収入の多い方に実行したことのあるものが多い。家族形態別では基本家族よりも複合家族の方が実行したことのあるものが多く、本人の年令では３０代、５０代に実行したものが多い。

第４２表　生活改善を実行したことの有無別農家

		計	実行したことのあるもの	改善したところ					実行したことのないもの	不明
				かまど	流し	風呂	台所全体	その他		
計		100%	47%	23%	20%	19%	17%	3%	53%	0%
主兼別	主農	100	50	24	20	19	17	2	50	0
	兼農	100	32	24	23	21	19	7	68	—
家族形態別	基本家族	100	40	17	15	14	15	3	60	0
	複合家族	100	52	28	24	22	18	4	48	—
世帯収入別	30万円未満	100	40	20	16	12	13	3	60	—
	30～50万	100	49	21	22	20	22	4	51	0
	50～80	100	55	35	27	29	25	5	45	—
	80～100	100	53	23	17	27	23	—	47	—
	100万円以上	100	65	45	40	25	15	—	35	—
本人の年令別	20～29才	100	36	27	17	11	16	4	64	1
	30～39	100	55	24	20	18	16	4	45	0
	40～49	100	41	17	19	20	19	3	59	—
	50～59	100	51	24	20	19	13	3	49	0

ブロック別にみて、生活改善を実行した農家の割合の多いのは近畿、中国、少ないのは東北、中部である。

１０年前にくらべて家事労働がらくになつたというものが８６%で、変らないもの１０%、かえつて大変になつたというものは４%である。生活改善を実行したものではらくになつたが圧倒的に多く、ことに大変らくになつたものが５５%と多く、変わらない、かえつて大変になつたものは少ないが、生活改善をしたことのないものでは少しは楽になつたという程度のものが多く（５３%）、変わらないものも１５%あり、生活改善が家事労働の軽減に役立つていることを物語つている。このほか、耐久消費財や既製品利用の傾向が次第に家事労働を容易にしていると思われる。

第４３表　１０年前との比較（家事労働）

	計	大変楽になつた	少しは楽になつた	変わらない	かえつて大変になつた
計	100%	40%	46%	10%	4%
生活改善実行したことある	100	55	38	4	3
〃　したことない	100	27	53	15	5

9.　家事共同化についての意識

家事労働を楽にするための方法として、共同で行なつて楽にする方法と、あくまで個人の家の中の改善や能率を高める方法で個人的にやる方法とでは個人的にやる方がよいというものが７４%で、全般的には、むしろ共同化に反対の意識を示しており、共同で行なうほうがよいとするものは１７%、両方行なうのがよいとするものが７%、合計２４%が共同化を支持している程度である。どこまでも調査対象農家のうち、部落で、又は近隣の家といつしよに実際に共同炊事を行なつたことのある農家は３%にすぎない。行なつた時季は大部分が田植時、少数が刈入れ時、又は春秋、例外的に平日がある。日数は最低１日から２７日だが１０日未満がほとんどであり共同する農家数は最低２戸から最高３０戸までであるが、３～１０戸程度のものが多い。これら共同炊事を実行したことのある農家では「してよかつた」と思うもの「今後もやりたい」と思うものが多数をしめている。してよかつたと思うものは、手間が助かつた、家事を心配せず作業能率があがつた、楽しみがつた、安上りだつた、献立を組合つてためになつた等といつており、よくなかつたと思うものは、連絡が遠く

	計	共同でやるのがよい	個人的にやるのがよい	両方やるのがよい	不明
計	100%	17%	74%	7%	2%
主農	100	17	75	7	1
兼農	100	19	70	6	5

不便、かえって二重手間になった、経費が高くついた、気兼ねがった等の理由をあげており、まだ方法上の問題や適応上のまさつのあることが示されている。

ブロック別にみると、中部では共同化を支持するものが多く、近畿、中国、九州ではあくまで個人的改善を希望するものが他よりやや多くみられる。

保育所を利用したことのあるものは全対象者の３０％あり、うち常設１５％、季節保育所１５％である。

第４５表　保育所利用状況

計	ある				ない	不明
	小計	常設	季節的	不明		
１００％	30％	15％	15％	1％	68％	2％

西日本の農家では常設保育所を利用したものが多く、東日本では季節的保育所の利用が多くみられる。

10. 健　康

健康状態については健康であるというものが約９割を占めるが、そのうち、弱いというほどではないが、肩がこる、足腰が痛いなどの自覚症状のあるものが７割近くもあり、肩こりがその主なものであるが、腰痛、神経痛などをうったえるものもある。

第４６表　健康状態

計	健康							弱い	大変弱い	不明
	小計	悪いところある	悪いところの種類					悪いところない		
			肩こり	腰痛	神経痛	その他	不明			
１００％	89％	68％	37％	13％	9％	13％	17％	32％	10％	0％	0％

結婚以来、健康診断（健康時の）を受けたことのあるものは７割で、大部分は集団で受診しているが、定期的に受けているものは$\frac{1}{3}$程度にすぎない。

第４７表　結婚後健康診断受診状況

計	ある							なし
	小計	定期的	不定期的	不明	集団	個人	不明	
１００％	70％	35％	15％	20％	54％	8％	8％	30％

11. 睡眠・起床・就寝

睡眠時間は普通の時は８時間以上のものが６３％と比較的多く、一番ひまな時では８３％に達するが、一番忙しいときには６～８時間のものが５８％、４～６時間のものが３４％となり、４時間未満のものも２％ある。主兼別では普通のとき、または一番ひまなときには主農の方が睡眠時間が長

い傾向があり、一番忙しいときは睡眠時間が少ないのも主農の方に多い。

第４８表　睡眠時間

		計	4時間未満	4～6時間	6～8時間	8時間以上
計	普通の時	１００％	－％	１％	３７％	６３％
	一番忙しい時	１００	２	３４	５８	６
	一番ひまな時	１００	－	１	１６	８３
主農	普通の時	１００	－	１	３４	６５
	一番忙しい時	１００	３	３６	５６	５
	一番ひまな時	１００	－	１	１３	８７
兼農	普通の時	１００	－	１	４６	５４
	一番忙しい時	１００	１	２９	６１	８
	一番ひまな時	１００	－	１	２８	７２

次にみるように起床時刻は妻の方が夫よりも概して早く、就寝時刻も夫より早いことは稀であるから、農家の主婦の睡眠時間が夫より短いことは当然考えられる。

起床、就寝時刻について夫との差をみると、起床が夫より早いものは７６％、そのうち５２％は夫より１時間以上早く起きる。就寝が夫より遅いものは４９％、そのうち１時間以上遅いものが３２％ある。主兼別では兼農の方が夫との差があり、本人の年令別では２０代、３０代では起床時刻が夫より早いものが８～９割ある。

第４９表　起床、就寝時刻の夫との差

		対象者総数	起きる時間							寝る時間					
			大体同じ	早い		遅い		不明		大体同じ	早い		遅い		不明
				1時間未満	1時間以上	1時間未満	1時間以上				1時間未満	1時間以上	1時間未満	1時間以上	
計		１００％	１８％	２４％	５２％	１％	１％	４％		４２％	２％	４％	１７％	３２％	３％
主兼別	主農	１００	２０	２５	５０	１	１	２		４３	３	４	１８	３２	１
	兼農	１００	１３	２１	５６	１	２	７		４１	１	５	１５	３２	６
本人の年令別	20代	１００	１８	２４	５９	－	－	－		４９	１	６	１４	３０	－
	30代	１００	１１	２６	６０	０	１	２		４２	２	４	１９	３２	２
	40代	１００	１８	２５	４６	２	１	７		４２	３	４	１５	３１	５
	50代	１００	２７	２１	４５	２	２	３		４１	２	５	１６	３３	３

12. 自由時間

自由時間の有無については、自由時間のあるものが全体の７２％、ないものが２８％な

これは「主婦の自由時間に関する意識調査」（昭和34年2月、労働省婦人少年局――裁縫、つくろいものなどの家事時間を若干含むので今回の数字と厳密には比較できない――）による郡部の数字と同じであり、同調査の市部（あるもの74％、ないもの26％）、区部（あるもの84％、ないもの16％）にくらべて自由時間のあるものが少ない。自由時間のあるものを、主農、兼農別にみると、兼農の方が自由時間のあるものの割合がやや大きく、年令別では自由時間のあるものの割合は20代が一番少なく、年代とともに増加し、40代、50代では最も多くなるが、それでも、自由時間のないものが2割以上ある。

第50表　自由時間の有無

		計	ある					ない
			小計	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	
計		100％	72％	4％	25％	26％	17％	28％
主兼別	主農	100	71	4	26	26	15	29
	兼農	100	75	3	22	27	23	25
本人の年令別	20～29才	100	60	3	24	17	16	40
	30～39	100	68	4	26	26	12	32
	40～49	100	76	4	28	30	14	24
	50～59	100	76	4	22	25	26	24

自由時間のあるものでは、1日に1～3時間の自由時間をもつものが多く、対象者総数の半数を占める。主兼別では、兼農の方が自由時間の長い方へ分布がいくぶん寄つており、年令別では概して年令の高いものほど自由時間の長いものが多い。自由時間にすることでは新聞を読むと雑談が多く、それぞれ対象者全体の32％、次いでラジオをきく29％、テレビをみる27％、休息20％、本をよむ16％等が主なものである。

第51表　自由時間にすること

		対象者総数	新聞をよむ	ラジオをきく	テレビをみる	雑談	交際	本をよむ	テレビ以外のみる娯楽	自分でする娯楽	休息	その他
計		100％	32％	29％	27％	32％	7％	16％	1％	1％	20％	9％
主兼別	主農	100	31	28	26	31	7	16	1	1	20	9
	兼農	100	37	30	30	37	6	19	2	2	19	8
本人の年令別	20～29才	100	26	23	21	17	－	19	－	1	14	9
	30～39	100	32	21	28	30	5	20	1	2	18	5
	40～49	100	35	31	25	31	7	18	1	1	19	12
	50～59	100	29	38	28	42	14	9	1	2	26	9

注　多答式解答であるため、計は100％を上まわる。

これに対し前出の「主婦の自由時間に関する意識調査」では読書が最も多く、長家の多い都市の数字でも読書が最も多く、次いで新聞を読むとなつている。これにくらべると今回の調査では新聞読み、雑談が多く、読書がややこれに劣つている。前回には少なかつたテレビをみるが大きく増加したのはこの2年間のテレビの普及を反映するものであろう。因みに前回の調査ではテレビ保有率は郡部で6％であつたものが、今回は34％となつている。なお、前回の調査では、裁縫、あみもの等が含まれており、郡部では自由時間の中に裁縫、つくろいものをあげたものが読書に次いで多かつたが、今回の調査ではこれら家事作業の分野に入るものは除外した。主兼別にみても全体としての傾向は大差ない。年令別ではかなり異なつた傾向がみられ、20代、30代、40代では新聞を読むものが最も多いのにくらべ、50代では雑談が最も多くなつている。20代では雑談よりも本を読むものが多く、50代では本を読むものはかなり少ない。雑談、交際、休息は年代の高いものほど増加している。雑談、休息が高年令ほど多いのは前回の調査にもみられた傾向である。30代以外の年令ではテレビをみるものよりラジオをきくものの方が多い。

自由時間のある人に自由時間をもつとほしいと思うか否かをたずねたところ、思わないものが半分以上あつた。主農、兼農別では思わないものの比率は兼農の方にやや多く、これは、自由時間が比較的多いためと思われる。自由時間のない人に自由時間をほしいと思うか否かをたずねた場合は、思うものの方が4ではるかに多く、これは主兼別でもほゞ同じ傾向を示している。しかし、年令別にみると、20代、30代では自由時間のないものの圧倒的多数が自由時間をほしいと思うと答えているばかりでなく、自由時間のあるものでも、もつとほしいと思うものが思わないものよりやや多いのに対し、40代、50代では自由時間のあるもののうち、もつとほしいと思うものは少なくなり、自由時間のないものでも、ほしいと思うものは20代、30代よりも少ない。このことは自由時間に比較的恵まれないものが、自由時間を切望していること、しかも、特に若い層が切望しているということを示している。

自由時間にしたいことは、自由時間のあるものも、ないものも、新聞よみ、読書、自分の娯楽、休息、ぬいもの、身のまわりなどをあげており主な希望事項は一致している。

年令別にみると、新聞よみ、読書を希望するのは若い年令ほど多く、自分の娯楽については30代にもつとも希望が多い。ぬいもの身のまわりは概して自由時間のないものほど、また年令の若いものほど希望している。自由時間のない30代の主婦では、子どもと遊ぶ時間がほしいと答えているものが多いことも特徴的である。外出や会合出席について希望しているものは、自由時間の有無のいずれのものでもきわめて少ない。働いて収入を得るというものは全くない。

第５２表　自由時間に対する希望

		計	自由時間をもつとほしいと		自由時間をもつとほしいものが自由時間にしたいこと							
			思う	思わない	休息	外出	新聞よみ読書	自分の娯楽	子どもと遊ぶ	会合出席	働をいて得収入る	身ぬのいまもわのり、
自由時間のある人	計	100%	42%	58%	9%	1%	13%	10%	3%	1%	0%	8%
主兼別	主農	100	44	56	10	1	13	11	3	1	—	8
	兼農	100	37	63	5	—	16	5	3	—	1	6
本人の年令別	20～29才	100	51	49	9	—	21	9	5	2	—	9
	30～39	100	51	49	8	2	17	11	5	1	—	10
	40～49	100	40	60	8	1	15	9	3	2	0	8
	50～59	100	33	67	9	—	6	9	1	0	—	5
自由時間のない人	計	100%	75%	25%	17%	0%	21%	17%	7%	1%	—	19%
主兼別	主農	100	75	25	16	1	21	17	4	1	—	21
	兼農	100	73	27	20	—	22	13	13	—	—	13
本人の年令別	20～29才	100	96	4	12	—	36	8	4	—	—	32
	30～39	100	78	22	17	1	22	22	14	—	—	21
	40～49	100	67	33	18	—	23	15	5	2	—	15
	50～59	100	67	33	19	—	10	14	—	2	—	14

13. 外　出

日帰りで外出することのあるものは全対象者の過半数であるが、月に１～２回のものがその大部分であり、外出の用向きは買物が最も多く４５%、次いで婦人会２６%、ＰＴＡ２４%、実家１９%、交際１８%などが多い。娯楽も１２%あるが、休養は４%と少ない。めつたに外出しないものが３６%あるが、主兼別では主農に、年令別では２０代に、めつたに外出しないものが多く、２０代では４割以上がめつたに外出しない。外出することの多いのは３０代、次いで５０代、４０代の順になつている。

主農よりも外出することのあるものの多い兼農では、買物、ＰＴＡの用向きで外出するものが比較的多く、婦人会、交際、その他の会合、休養などは主農よりも少ない。年令別にみると、３０代、４０代、５０代では買物のために外出するものがことに多いが、外出することのあるものの少ない２０代では実家に帰るものが買物と同程度で最も多くなつている。実家に帰るというものは高年令者ほど少ない。交際は年令の高いものほど多いが、休養は２０代が比較的に多く、５０代、４０代、

第５３表　日帰りの外出

		対象者総数	外出することのあるもの														めつたにしないもの
			計	月に					用向き								
				1回	2回	3回	4回	5回以上	買物	交際	PTA	婦人会	その他の会合	休養	娯楽	実家	その他
計		100%	64%	27%	17%	9%	3%	8%	45%	18%	24%	26%	5%	4%	12%	19%	6%	36%
主兼別	主農	100	62	26	17	9	3	8	43	19	23	27	5	4	12	19	4	38
	兼農	100	68	32	18	10	1	7	50	17	27	24	4	2	12	20	12	32
本人の年令別	20～29才	100	56	33	7	7	3	6	36	7	6	16	4	6	9	36	9	44
	30～39	100	68	34	17	10	1	6	47	15	35	32	4	2	14	26	3	32
	40～49	100	61	21	20	9	4	7	46	20	27	26	6	3	11	18	6	39
	50～59	100	64	24	17	10	3	11	43	23	11	22	5	5	12	8	8	36

３０代の順になつている。最も外出することのあるものが多いる０代では、ＰＴＡや婦人会の用向きが多く、娯楽も他の年令層よりも多いなど、自由時間の内容等から３０代の活動的な状況が若干うかがわれた。

14. 旅　行

昭和３６年１年間に泊りがけの旅行に出かけたことのないものは過半数であるが、これは年令によつて差があり、５０代では半数近くが出かけており、次いで４０代、２０代の順で、３０代が最も少ない。主兼別では主農の方が泊りがけの旅行に出かけたものが多い。泊りがけの旅行に出かけたことのあるものでは、１回というものが過半数で、１番長い時でも１～３泊というのが大部分である。１人で行つたものは少なく、２０代では「家族」と共に「実家」へ行つたものが多く、４０代、５０代では「団体で」「娯楽」に出かけたものが多いようである。３０代では「団体」旅行や、「家族」と共に行つたものが同数ずつで、目的も「娯楽」と「実家」が同じ割合を占めている。

第54表 泊りがけ旅行

		対象者数	泊りがけで旅行に出かけたことのあるもの										
			計	今年になつて					1番長い時で				
				1回	2回	3～5回	5～10回	10回以上	1～3泊	3～5泊	5～10泊	10泊以上	不明
計		100%	36%	23%	7%	4%	1%	0%	23%	5%	4%	2%	0%
主兼別	主業	100	37	25	7	4	1	0	25	5	4	2	0
	兼業	100	32	18	8	4	2	—	19	5	3	1	—
本人の年令別	20～29才	100	30	16	7	6	1	—	20	9	1	—	—
	30～39	100	28	19	5	2	2	0	17	5	2	0	—
	40～49	100	37	22	10	3	1	0	30	3	4	2	—
	50～59	100	47	32	8	6	1	0	28	5	7	5	1

		対象者数	泊りがけで旅行に出かけたことのあるもの										ないもの
			計	同行者			目的						
				団体で	家族と	1人で	娯楽	休養	交際	実家	その他		
計		100%	36%	19%	11%	6%	17%	5%	5%	8%	4%		64%
主兼別	主業	100	37	20	11	6	18	6	5	9	3		63
	兼業	100	32	16	13	7	17	3	4	7	5		68
本人の年令別	20～29才	100	30	6	21	—	9	—	—	20	3		70
	30～39	100	28	11	11	4	11	2	3	11	2		72
	40～49	100	37	21	10	8	17	7	5	7	4		63
	50～59	100	47	29	11	9	27	9	7	4	6		53

農家婦人生活に関する意識調査対象地点一覧表

区分／県名	調査対象市町村名	個所数
青森県	1.上北郡甲地村　2.西津軽郡柏村	2
岩手県	3.西磐井郡花泉町　4.西磐井郡平泉町　5.二戸郡一戸町（旧小鳥谷（コズヤ）村）	3
宮城県	6.亘理（ワタリ）郡山元町　7.牡鹿郡鮎井町	2
山形県	8.東置賜郡和郷村　9.西置賜郡白鷹町　10.西置賜郡飯豊町	3
福島県	11.岩瀬郡岩瀬村　12.西白河郡中島村　13.西白河郡西郷村	3
茨城県	14.筑波郡大穂町　15.行方郡玉造町	2
栃木県	16.大田原市（旧佐久山町）　17.栃木市（旧国府村）　18.足利市（旧富田村）	3
群馬県	19.利根郡昭和町（旧糸之瀬村）　20.甘楽郡丹生村　21.勢多郡北橘村	3
埼玉県	22.南埼玉郡菖蒲町　23.大里郡花園村	2
千葉県	24.山武郡山武町　25.野田市（旧川間村）	2
神奈川県	26.平塚市（旧城島村）	1
新潟県	27.北魚沼郡守門（スモン）村（旧上条村）　28.東蒲原郡鹿瀬町（旧鹿瀬村）　29.北蒲原郡聖籠村（旧聖籠村）	3
長野県	30.上田市（旧豊里村）	1
岐阜県	31.加茂郡八百津町（旧福知村）	1
兵庫県	32.出石郡出石町（旧室埴村）	1
奈良県	33.磯城（シキ）郡桜井市（旧上之郷村）	1
鳥取県	34.東伯郡大栄町	1
岡山県	35.赤磐郡吉井町（旧布都美村）　36.勝田郡勝北町	2
広島県	37.賀茂郡八本松町（旧造賀村）	1
愛媛県	38.越智郡朝倉村（旧上朝倉村）	1
高知県	39.土佐郡鏡村	1
福岡県	40.三井郡善導寺町（旧大橋村）	1
長崎県	41.南高来郡南有馬町	1
熊本県	42.八代市（旧昭和村）　43.玉名郡横島村　44.八代郡千丁村　45.上益城郡益城町	4
宮崎県	46.都城市（旧志和池村）　47.宮崎郡清武町	2
鹿児島県	48.曽於（ソーオキ）郡財部北町（旧市成村）　49.鹿児島郡西桜島村　50.鹿児島郡吉田村	3
26県	計	50

注　（　　）内の町村は本調査対象地点であつて、市町村合併以前の町村名である。

農家婦人生活に関する意識調査

昭和３９年１月１５日印刷
昭和３９年１月２０日発行

発行者　東京都千代田区大手町１～７
労働省婦人少年局

印刷者　東京都文京区富坂２～１４
巽　商会　電話（８１２）０７０１　６６８５